昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和54年2月15日発行（毎月1回15日発行通巻第112号）

バドミントン

日本バドミントン協会　The Badminton World No.112　1979



ぼくがステッカーになりました。可愛いがってね!!



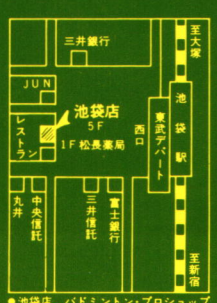
●年中無休

●営業時間　渋谷・池袋店
AM10：00～PM７：00
横浜店
AM10：00～PM８：00

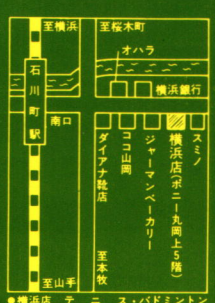
ラケットショップ元町



●渋谷店　バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店　バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215



●横浜店　テニス・バドミントン
☎045-651-2020

バドミントン2

❷
〝速射砲〟リム・スイ・キン
さっそうのデビュー

❸
湯木、ベラワティの強打封じる
えぴそ～ど

❺
お知らせ

❻
★座談会
全日本学生チーム合宿に参加して

❽
昭和53年度関東学生新人戦
男女とも三冠王が誕生

⓬
ハッシュマン夫人・連載
ネバー・ギブアップ

⓮
'78カナダ・オープン
関根・大塚みごと栄冠

⓱
Bagus!! King
Fantastic !! Ade &Christian

㉚
第8回アジア競技大会
中国女子　日本・インドネシアを連破

㉜
リム・スイ・キン、中国勢を寄せつけず
近藤の健闘およばず

㉞
小林範夫
いつまでも〝アジア軽視〟でよいのか

㊳
竹市行男
スコアシートの〝実験〟

㊵
読者と編集者
ヨーロッパ情報

㊷
読者投稿・第25回近畿高校選手権大会
決定的瞬間!!

㊹
お知らせ
編集室から

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇今月の表紙＝ワールドカップ'79でその実力をみせたリム・スイ・キン（インドネシア）

〝速射砲〟リム・スイ・キン さっそうのデビュー

クリスチャン・チャンドラ組も底知れぬ実力



ワールドカップ'79の緒戦横浜大会は横浜文化体育館において1月13日午後2時から行われた。

当日は数日前までのポカポカ陽気がうそのような、早朝からの雪に見舞われた。日中でも気温3度という寒さにもかかわらず、熱心なファンが午前9時頃からつめかけ、心配された観客の出足も、試合が始まるときには、約三千と満員になった。

そして、ワールドカップ'79の最大の話題である世界チャンピオン、リム・スイ・キンがそのベールを脱ぎ、実力どおりプラカシュ、小島を連破して優勝した。

また、世界ナンバー2のダブルス、クリスチャン・チャンドラ組は、終始余裕あるゲーム運びで池田・栂野尾組に快勝した。

◆男子シングルス

リム・スイ・キン　2（15—12　18—15）　1　プラカシュ
15—1

小島　2（15—7　12—15　15—11）　1　タルボット

世界チャンピオンのリム・スイ・キンとこれも進境著しいインドの星・プラカシュとの対戦は、場内の期待にこたえ見ごたえのある内容だった。

雪の降るなかで、暖房をしているとはいっても、インドネシアのリム・スイ・キンにとってはかなり寒く感じられたであろう。第1ゲームは、時おりすばらしいスマッシュをみせるが、プラカシュの高い位置からのスピンのきいたヘアピンに苦しめられ、主導権を奪うことができず12—15で敗れ、第2ゲームも13オールのセッティングから15—13とリードされ、ムードとしてはプラカシュの勝利という状態だった。

しかし、ここからリム・スイ・キンの実力が顔を出し、プラカシュは何回もサーブ権を手にするがポイントをあげることができず、まったくのこう着状態となった。リム・スイ・キンは無理な攻撃をしかけることなく、丁寧に配球、そしてヘアピンの応酬からプラカシュがバック側ネットぎわからリム・スイ・キンのバック奥をついたリターンに一瞬ジャンプし、目のさめるようなバックスマッシュを決めた。

この一球で完全に流れが変り、一気に18—15でファイナル・ゲームに持ち込み、その後も疲れのみえたプラカシュを寄せつけず15—1で完勝した。第1、2ゲームで42分要したのに対し、ファイナル・ゲームはわずか10分で勝負がついたことをみても、リム・スイ・キンの力がよくわかる。

プラカシュは180センチの長身から打ちおろすスマッシュと、ヘアピンで善戦し、リム・スイ・キンをおびやかしたのは立派といえよう。

二人とも非常に真面目にプレーを展開し、技術以外の面でも見ごたえのある一戦であった。

一方の小島対イングランドナンバーワンのタルボットの試合は、さながら〝牛若丸対弁慶〟といった様子で、これも50分に及ぶ熱戦となった。

タルボットはヨーロッパスタイルの柔いプレーで、とくにラウンド・ザ・ヘッドストロークからくり出すスマッシュ、ドロップショットには威力があり、小島をゆさぶった。

小島は全盛時を思わせるフットワークで拾いまくり、ヘアピンの勝負に持ち込んでその持ち味を十分にみせた。

とくにファイナル・ゲームでタルボットの猛烈な追上げにあい、さらにオーバネット、タッチ・ザ・ネットと続けてきわどいフォルトをとられピンチに立ったときも、集中力を失わず、タルボットの攻撃をしのぎ、逃げ切りに成功した。

地元横浜で、久し振りに小島らしいプレーをみせ、ベンチに戻ると多くのファンにかこまれていたのが印象的だった。

リム・スイ・キン　2（15—8　15—3）　0　小島

タルボット戦の出来からみて大きな期待を寄せられた小島だが、リム・スイ・キンの打って

よし守ってよしのプレーに完全にお手上げといった内容となった。

開始早々、リム・スイ・キンは自分からほとんど攻撃をしかけず、小島をコーナーからコーナーへ走らせるとともに、やや浅い返球で小島に打たせ、疲労を待つという戦法。

小島もチャンスボールは全力で叩いたが、リム・スイ・キンの絶妙なレシーブと意表をつく攻撃に勝利の糸口を見出すことができなかった。

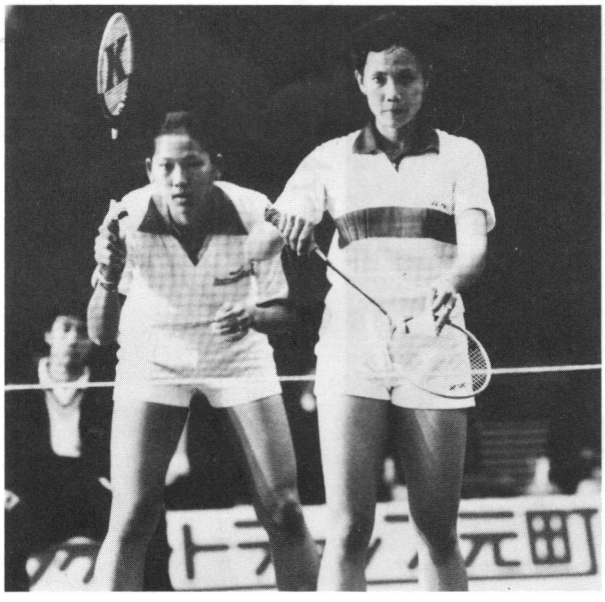
リム・スイ・キンのジャンプしてくり出すスマッシュで、体をひねらず腕だけでクロスコートに決めるシャトルは非常に威力があり、プラカシュ、小島ともレシーブできぬ場面がたびたびあった。

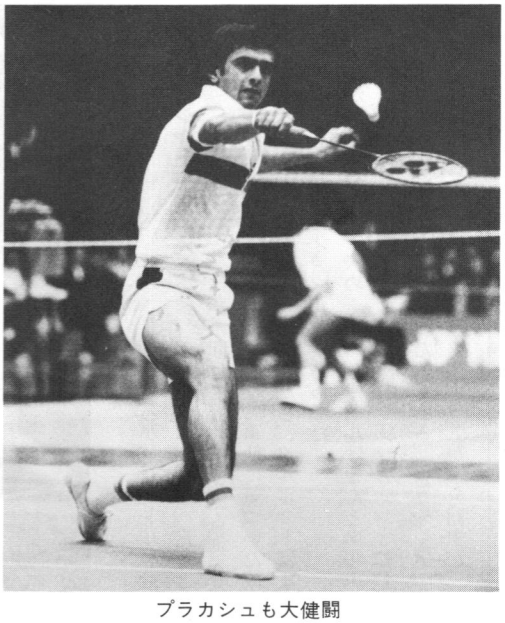
シングルス出場の4選手はそれぞれ全く違ったタイプのぶつかりあいで、どれも内容のあるゲームであった



こころよくサインに応じるチャンピオン

調子は悪かったが真剣にプレーしたイメルダ・ベラワティ





プラカシュも大健闘

湯木 ベラワティの強打封じる

◆女子シングルス

湯　木 2 (11—3, 11—3) 0 クラークソン

ベラワティ 2 (12—11, 11—6) 0 石　田

湯木対クラークソンは双方の実力からみて好試合を期待したが、クラークソンにまったく調子が出ず、一方的に終了。

クラークソンのか細い体がいっそう細く、気の毒にもみえる内容であった。

一方、ベラワティ対石田はなかなかの好試合だった。

長身（178センチ）のベラワティに小柄な石田が全力で挑戦したという感じでスコアもさることながら、一球一球のストロークに石田の気迫が感じられた。

湯　木 2 (11—8, 11—9) 0 ベラワティ

昨年のユーバー杯大会決勝でベラワティに苦杯を喫している湯木は最初からとばした。

ベラワティのドロップショットにやや悩まされるシーンもあったが、コーナーワークでもヘアピンでも常に優位に立ち、ストレート勝ちを収めた。

ベラワティも長身を利しての攻撃と、意外に細かい丁寧なプレーを時折り見せたが、集中力を欠く場面が多く、とくに第2ゲーム中盤の長いラリーを失ってからは、ややあきらめの感があったようだ。

◆男子ダブルス

クリス チャン
チャン 2 (15—7, 8—15, 15—7) 1 池　田
ドラ　　梅野尾

世界ランキング2位、そして先の第8回アジア大会での優勝という実力派ペアのクリスチャン・チャンドラ組は、やはり底力があり、日本2位の池田・梅野尾組では歯が立たなかった。

第1ゲーム、チャンドラのスマッシュとクリスチャンの前陣での攻撃が思いどおりに決まり、15—7でチェンジエンド。

しかし第2ゲームは、インドネシア・ペアが気を抜いた感じで、レシーブに回り、池田組にも当りが出て15—8でファイナ

ル・ゲームへと勝負は持ち越された。

しかし、ファイナル・ゲームになるやクリスチャンのインターセプト、チャンドラのスマッシュ、そしてともにネット際でのプッシュがさえをみせ、なんと7分余りでゲームセット。

〝勝とうと思えばいつでも勝てる〟といったゲーム運びで、実力の差を感じさせた一戦である。

◆女子ダブルス

植野 2 (15—11 15—9) 0 イメルダ・ベラワティ
米倉

アジア大会では優勝したイメルダ・ベラワティ組だが、ともにプレーに切れ味がなく完敗。

植野・米倉組は弱気になってレシーブに回る際に、崩れかかる悪いクセが顔を出したが、すぐに攻撃に転じて、インドネシア・ペアをゆさぶり、ストレートで勝利を得た。

雪の降る悪天候の日に、5時間も待たされたイメルダにはやや気の毒なゲームであった。

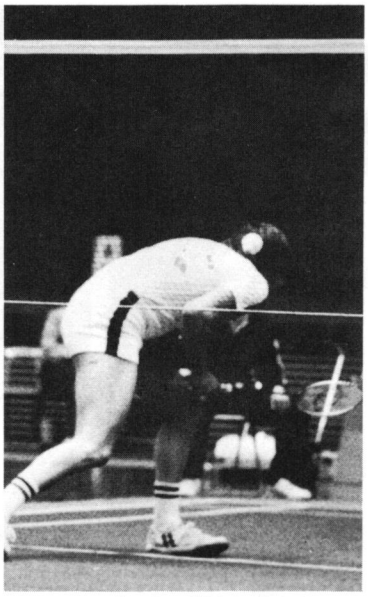
◇　◇　◇

小島対タルボット戦、リム・スイ・キン対プラカシュ戦はともに熱のこもったゲームであったが、あとは一方的な内容となり、やや寂しい感があった。

しかし、リム・スイ・キンのフォアからの強烈なクロススマッシュ、プラカシュのヘアピン、クリスチャンの前陣速攻、チャンドラの迫力あるレシーブの構えなど、昨年まで来日したヨーロッパ選手とはひと味違ったプレーが随所に見られた。

そして、試合に対する態度、シャトルへの執着心などもヨーロッパ選手を上回り、つめかけた約三千の観客も最後まで席を立たず、声援を送っていた。

えぴそ〜ど



タルボットの背中に命中!!

アレッ、シャトルが消えた

小島対タルボット戦のファイナル・ゲーム。ヘアピンの応酬からタルボットの浮いたショットを小島がバックハンドで決めた。このシャトルをタルボットは首をすくめてよけようとしたが、背中に命中。

ところが、シャトルを拾おうとしたタルボット、足もとを見回してもシャトルが見当らない。そのうち事態に気づいた観客が笑いだし、タルボットはますますあわてた。

シャトルはなんとタルボットの背中にひっかかったままだったのである。ようやく気づいたタルボットが手を回すが、ちょうど手の届かないところ。

副審をつとめた山崎選手（関東自工）がシャトルをとってケリがついたが、タルボットは、その前に2度もヘアピンを叩かれて体に命中しており、ネットでは小島の完勝だった一戦。

シュッ、シュッは一回だけ

男子ダブルスに登場したインドネシアのチャンドラは、ウェスタングリップから強烈なスマッシュを打ち込むが、そのときに〝シュッ、シュッ〟という掛け声をかけるので有名。

観客もその声を期待したが、第1ゲームの初めにひと声掛けてオシマイ。

もっと試合が切迫したものになれば、掛け声も聞かれたかも知れないが……。

変わったことをしたのは誰だ

久し振りの国際大会とあって、地元神奈川県協会の実行委員は前日まで準備に余念がなかったが、その際、「もうあとは天気さえ良ければ」「雪でも降るといけないから変わったことだけはしないように」と話し合っていた。

ところが、試合当日はなんと未明からの雪。体育館周辺はそれほどでもなかったが、郊外では真っ白に雪化粧するほど。

体育館に集合した役員はそれぞれ顔を見合わせ、「変わったことをしたのはいったい誰だ!!」

相次ぐ変更にてんやわんや

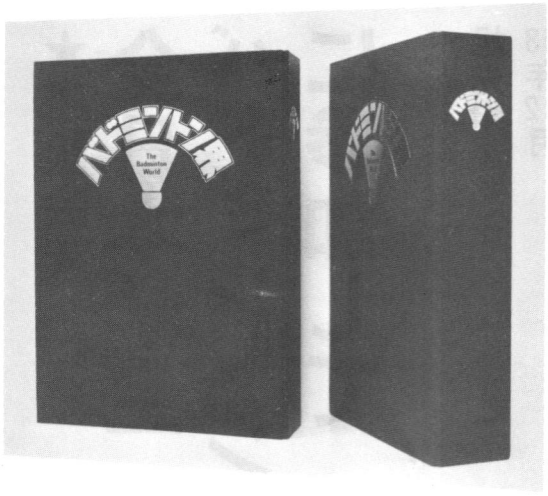
横浜大会は当初、クリスチャン対小島、タルボット対笠井（関東自工）が行われる予定であった。ところが年明け早々リム・スイ・キンが横浜大会に参加することになり、まず変更。

そして1月6日の夜、大会に備えて練習中の笠井がアキレス腱を切るというケガに見舞われた。

試合まで一週間という時点での事故だけに県協会は大あわて。すぐに大会事務局と調整し、数日前になってようやくプラカシュに決定。

結果的には世界チャンピオン、英連邦チャンピオンの試合を見ることができ、大成功。

あとは笠井選手の早い回復を祈るだけとなった。



バドミントン界専用

合本バインダー

現在品切れ
4月初め出来
予約受付中

定価・500円

穴あけ不要・かんたんに・美しく保存

「バドミントン界」は読捨ての雑誌ではありません。毎月きちんと揃えて保存すれば、バドミントンの百科事典となるものです。

そのために本誌1年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に保存しておくことのできる専用合本バインダーができました。

今回製作したものは、表紙の新しいデザインにあわせた写真のようなシャレたものです。

表紙は濃いブルーの特殊レザーを使用し、本誌と同じデザインを銀パクで押したものです。丈夫で長い間の保存に耐えることができます。

専用合本バインダーは1冊定価500円ですので、ご希望の方は下記の送料を加えて、本誌巻末に綴じ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

（送料1冊＝300円、3冊まで600円、4冊以上700円）

バドミントン界編集部

年間購読のおすすめ

バドミントン専門月刊誌「**バドミントン界**」は、一般の書店では販売しておりません。

購読ご希望の方は、編集部あて年間予約購読をお申し込みください。バドミントン界は一部定価300円ですが、年間予約購読をお申し込みになりますと、一年間3600円のところを3000円に割引となります。さらに日本バドミントン協会登録会員の方は、2800円となります。

お申し込み方法は簡単です。本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項明記のうえ、代金をそえてお近くの郵便局からお申し込みください。毎月15日に発行と同時にお送りいたします。

購読期間は1年ごとの更新となりますので、6ヵ月や2年間といった変則的なお申し込みはご遠慮ねがいます。

また、ヨネックススポーツ、河崎ラケットの特約スポーツ店、ラケットショップ元町、ラケットショップフジ、ジャワ商会、サンスポーツ、アサヒスポーツ各店でも予約をお取り扱いしておりますので、各店にご照会ください。

★座談会★
全日本学生バドミントンチーム合宿に参加して

旭光学・益子
53年12月

◆座談会出席者
阿部　孚（選手強化委員）
片岡輝明（四条畷女子短大監督）
◆男子
吉岡伸浩（中央大学3年）
富田章夫（法政大学3年）
沼沢　隆（日本体育大学3年）
坂本宏志（日本大学3年）
◆女子
石田ひとみ（日本女子体育大学3年）
河村茂美（四条畷女子短大1年）
高岸陽子（東京女子体育大学3年）
徳永順子（日本体育大学2年）
渡辺喜美（日本女子体育大学3年）
◆司会
赤星三樹（本誌編集長）



――合宿に入って一日半が経過した訳ですが、せっかくこうして各大学の有望選手が集まったことだし、両監督を囲んで話し合う場を設けてみたいと思います。まず、この合宿が実現の運びになったいきさつから……。

阿部　今まで日本バドミントン協会としては、まったく学生を切り離した状態でした。しかし学生のレベルの低下ということもあり、これではいけない、より近づいて全体的にならなければいけない。こういう発想から、それでは各大学の現状をよく見た上で、方向なり方針を決めていかなければいけない。それにはまず、このような合宿を行なってみるのが一番良い方法ではないか、という小飼氏をはじめ上層部の意見で、そのパイプ役として私が日本協会から派遣された訳です。

渡辺　われわれの方も、実力の低下を痛感していた矢先に、日本協会からそのような話があり、渡りに舟といった具合いでした。しかもフィフティ・フィフティの立場で運営していけるということで……。

――なるほど、それでは指摘されていたように、各大学の練習量、練習方法について述べてもらいましょう。

高岸　東女体は、週に6回ですが、4面のコートを使える日が3回しかありません。部員が多い（41名）ので……。試合前はほとんど試合形式で、シーズンオフに基本練習をします。

石田　週に6回、6面のコートが使えます。





時間は2時間半、ゲーム練習中心です。冬にトレーニングをやります。

徳永　ウチは週に6回、毎日2時間で4面使えます。かならずランニングをしています。

河村　毎日2時間半やってます。日曜祭日は5時間。4面のコートを中学生と分けて使っています。

吉岡　中大は合同練習が週に3回。その時は4面で3時間行ないます。ゲーム練習中心ですが、基本は自由練習で各自がやっています。

沼沢　週に5回、一日休みで、一日はフリーです。4面を使用して毎日2時間。試合前は朝も練習します。ゲーム練習中心です。

冨田　法政は週に6回。3時間の練習を4面使って、ゲーム練習中心で、余った時間に欠点を直したりします。

坂本　ウチは部員が多い（30名）ので、基本練習が中心です。週6回、4面のコートで3時間します。

――それぞれの大学の比較ができて面白いですね。では今度は、まだ一日半しか経っていませんが、この合宿に入っての感想は？

吉岡　基本の応用ですが、真ん中に戻ることを指摘され、いつもミスしない球をミスしてしまいます。

阿部　今日は辻君に、模範プレーを見せてもらった訳だけど、彼の場合、何の指示もないのに、忠実に真ん中に戻っている。自然に出てくるんだなあ。この基本的な土台作りが、先決になってくると痛感した。

坂本　いろいろ注意されて、基本を忘れていたことが判りました。勉強になります。

高岸　今回の基本は、実践的な基本だと思います。有効ですね。ただクリアーを打つにしても、これまで怠けていたと思いましたし、トレーニングにしても、甘えていた部分が大きかったなあ、と思います。

河村　今度のように、言葉でくわしく説明してもらったことがなかったので……（一同不思議そうな表情）。

片岡　平も河村も、学校のときとは指導方法が違うんで、別人のように思っているんと違うかな。これは当然、肌で感じて何を考えているか判る者と、初対面との違いや。ワタシはふだんの学校では、あまり説明せん方針やから。

阿部　初対面だし、やはり言葉という伝達方法を採るしかない、ということだね。

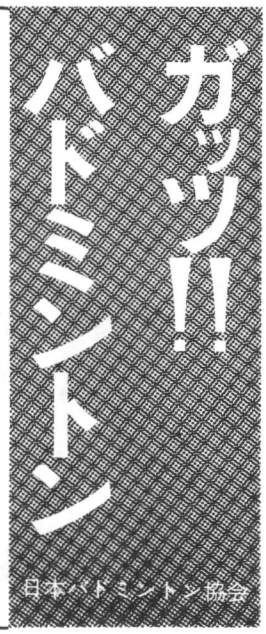
河村　関西はレベルも落ちるし、今回は勉強のいいチャンスです。

阿部　日大は、他校に比べて基本練習を多くしているようだけど、その中身は？

坂本　オールロングとか、オールショートが多いです。今回のように組み合わせ練習だと、配球についてもよく判ります。

――辻君は、ナショナル・チームのメンバーとして現在の日本のトップにいる訳ですが、辻君から見た、学生へ対する意見、感想といったものを聞かせてください。

辻　社会人は、同じプレーをするにしても自



限りなき挑戦
小島一平著

◆読者の声……バドミントンのきびしさと楽しさを知った／これまでのものにはない素晴しい本だ／バドミントンをやる私達にとって、小島さんの歩いてきた道はとても勉強になった／写真が多くてよかった／小島一平さんのバドミントンにかけた人生のすばらしさに感動した／小島さんの気迫がヒシヒシと感じられ、バドミントンにかける熱意が私自身のプレーにも少なからず影響をもたらすと思う／とても内容が濃いのでバドミントンファンにとって貴重な本。よい勉強になった／これからも小島一平さんに頑張ってもらい、また僕も負けずに頑張りたい。
〈愛読者カードから抜粋〉

日本図書館協会選定図書
定価2000円（送料240円）

◆お申込みは、巻末とじ込みの振替用紙でお願いいたします。

信を持ってやっている。それに較べ、学生は何か躊躇しているような気がします。やっていることは同じことなのに。

冨田　そうなんです。社会人とやると、打つ前に走られているようなんです。学生では決め球になっていたものが、読まれているから全部拾われてしまうんです。

阿部　言ってみれば、動作が遅いというよりも、遅れているんだな。一テンポ、いや半テンポ遅れているために、相手の球筋が読めず、後手後手になってしまう。

片岡　これは女子の場合に特に多いんやが、精神的に勝てないと思ったら、完全にアカンのや。精神的なこの壁が、ものスゴウ大きい。どないやろう。

石田　確かに1、2年生の頃は、上級生には勝てないと思い込んでいました。現在は3年生なので、勝つ意識を持ってやっていますが。

片岡　男子の場合、勝ったら「勝った」と友達に言うたりするんやが、女子の場合、絶対口に出さへん。内向的な訳や。同じ日体大でも、関根、大塚に勝ってもいいんやで（徳永選手へ顔を向けて）。

徳永　（苦笑い）追いつくのが精一杯です。

――現代学生気質にまで及んできましたが、それらを含めて、この初の合宿に対する抱負、期待、それから今後、これをどのように発展させるかなど、展望を混じえて自由に発言してください。

石田　大学では量より質ということで、やっ

公　示

昭和53年12月4日
日本バドミントン協会

本会検定合格用具について（追加）

このことにつきまして，つぎのとおりです。

記

ポストの部 ＝銘柄名＝	＝価格(円)＝	＝会　社　名＝
G－52	17.600	合名会社　上坂鉄工所
G－52A	149.800	同　上
G－52B	08.000	同　上
KP－16	18.000	株式会社関西金属運動具製作所
KP－17	97.000	同　上
SB－57	15.000	株式会社　三英商会
	17.000	同　上
SB－110	32.000	同　上

以上

公　示

昭和54年1月29日
日本バドミントン協会

本会検定合格用具について（追加）

このことにつきまして、つぎのとおりです。

記

ポストの部 ＝銘柄名＝	＝価格(円)＝	＝会　社　名＝
B－56	18,000	株式会社　栗　林
	14,000	
B－57	28,000	〃
M－1	18,000	(有)小倉運動具製作所
92	15,000	後藤体器株式会社
	7,000	
91	22,000	〃
BP－10	16,200	三和体育製販株式会社
DG－11	19,000	セノー株式会社
	11,600	
DG－21	29,000	〃
B466	16,000	株式会社　藤　栄
	21,000	
79A	11,000	株式会社　舟岡製作所
	12,500	
	17,000	

以上

てきましたが、今回は自分の理論と違ったものを学びたいです。それとダブルスの前衛を。

徳永　大学にはそれぞれカラーがあるので、他の良い面を吸収して、長所、短所を見分ける眼を肥やしたいと思います。

高岸　私個人の場合でも、大学の場合でも、接戦しながら負けてしまうことが、非常に多いんです。本番で実力をどれだけ出せるか、試合の勝ち方、といったものを勉強したいです。このような合宿に選ばれただけでも、たいへん嬉しいのですが。

河村　関東の人達とは、接する機会が少ないので、良い面をいろいろ学びたいです。それと基本で横着していた点を、これを機会に直していきたいです。

片岡　ここ数年、学生のレベルの低下が叫ばれて久しい訳やけど、関西に関して言えば、男子は近大、女子は四条畷が抜けているため、他の大学は皆んな〝仲良しクラブ〟いうか、ライバル意識のない、覇気のない、諦めムードのクラブになってしもうた。関東でも、この眼で実際に見たこともあるんやけど、そうなりつつあるんと違うか。

辻　ある一部では、本当にそういった勝ちたいという意識が、感じられないことがありますね。

阿部　まあ一日のうちに、練習時間は3時間程度のものなのだから、私生活との〝けじめ〟をはっきりつけないと。切り換えを早くして、かつ徹底させなければ、ということが大事になってくると思う。

渡辺　学生のトップクラスを、より向上させるためには、大学の練習だけでは駄目だと思います。各校のトップ同士の練習や、社会人を混じえた練習が必要になってくると思います。

辻　それから、学生はインカレが最後の試合だと思う風潮があると思います。その後にはオールジャパンもあるんだし、学生同士の試合で満足していてはもったいない、と近頃思うんです。練習時間は何といっても、学年が一番なんだし。

冨田　社会人との交流がないのは事実ですね。ボク達を客観的に見ることのできる社会人と、もっと接することができたらと思います。

阿部　各大学に、〝鏑（しのぎ）を削る〟顔ぶれが少なくなったのは事実だ。

片岡　企業のバックアップによって、選手の完成年齢が高くなったことはなった。けど、ここが難しんやけど、バドミントンほど、教科書のないスポーツもあらへん。現状では、自習しかないのや。独学で強くなる、天才を待つしかないのや。コーチの絶対数が少ないこともあるやろう、けど才能のない時代にこそ、コーチが必要だし、コーチの哲学が必要な訳や。今の大学には〝哲学〟が見あたらないのや、昔の立教には立教の、中大には中大の哲学があった。ほかのスポーツでは、プロでさえコーチに従う時代いうのに……。絶対いうもんでなくても、取捨選択の軸になるものが必要や。イズムいうもんを持って欲しいな、各大学が……。今のままでは、育ててもらった高校の先生のイズムさえ忘れ去っとる。

阿部　かつて日大に舟山君という選手がいたが、この選手はオールジャパンで2位に食い込んだことがある。一つのきっかけで飛躍できるという、いい例だ。現在でもベスト8に入れる人材は沢山いると思う。ナンバー1を目指せば、ナンバー1の努力をするし、ナンバー2を目指せば、ナンバー2の努力しかしない。この信念を持っていれば、できること可能なことは多いと思う。その上に築いていくのが土台となる基本作り。具体的に指摘すれば、今回重点的に行なおうとしている、ホームポジションへの戻りのスピード、ラッシングの踏み込みのスピード。短期間なので完全に修得することはできないかも知れないが、これらのラリーが楽しくなれば、一流といっても過言じゃないだろう。

片岡　女子について言えば、これは世界一のジュニアの集まりと断言できる。次代の主役の意識を持ってやって欲しい。一言でいえば部分練習ではなく、基本練習をやれ、と言いたい。

昭和53年度関東学生新人戦

ーヵ月に及ぶロングラン大会

男女とも三冠王が誕生

参加二千名ちかいマンモス・イベント

旧聞に属しますが、昭和53年度関東学生バドミントン選手権大会新人戦が、11月3日から12月2日までの1ヵ月にわたり、駒沢体育館をはじめ10余会場で行なわれました。

毎年、増加の一途をたどってきた参加者も、今年は一応の落ち着きを見せたとはいえ、Bブロックにおいては男子シングルスに758名、女子シングルスに708名もの参加を見ました。

特筆すべきことは、今大会からBブロック個人戦1、2回戦に限り、合成球が使用されたことでしょう。

次代の有望選手を占なう意味においても、合成球採用の試験的運営においても、注目を浴びた大会となりました。

〈Aブロック〉

▽男子団体戦準決勝
日体大(A) 3—1 法大
中大(A) 3—0 日体大(B)

▽同決勝
中大(A) 3—0 日体大(A)

▽女子団体戦準決勝
日女体(A) 3—0 東女体(B)
日体大(A) 3—1 東女体(A)

▽同決勝
日体大(A) 3—1 日女体(A)

▽男子シングルス準決勝
西山 2 (15—7, 15—8) 0 小浜（青学）
平野（早大） 2 (15—2, 15—6) 0 若生（日体）

▽同決勝
西山 2 (15—17, 15—11, 15—11) 0 平野

▽女子シングルス準決勝
徳永（日体） 2 (11—8, 11—8) 0 青木（日女体）
枝（日体） 2 (11—6, 11—8) 0 内田（日女体）

▽同決勝
枝 2 (11—3, 5—11, 11—6) 1 徳永

▽男子ダブルス準決勝
稲垣 伊藤 2 (18—17, 7—15, 15—5) 1 小浜 尾山（青学）

▽同決勝
上原 西山 2 (15—5, 14—18, 15—2) 1 丹藤 楠美（法大）

▽同決勝
上原 西山 2 (15—6, 15—3) 0 稲垣 伊藤

▽女子ダブルス準決勝
徳永 枝 2 (15—7, 15—3) 0 横田 高野（日体）
藤井 松枝 2 (11—15, 15—11, 15—11) 1 柴田 川島（東女体）

▽同決勝
徳永 枝 2 (15—8, 13—15, 15—8) 1 藤井 松枝

〈Bブロック〉

▽男子団体戦準決勝
日体大(A) 3—0 関東学園
日体大(B) 3—0 大東文(A)

▽同決勝
日体大(A) 3—0 日体大(B)

▽女子団体戦準決勝
東女体(A) 3—1 昭和女(A)
専修大 3—2 日体大

▽同決勝
東女体(A) 3—2 専修大

▽男子シングルス準決勝
来栖（玉大） 2 (17—16, 15—3) 0 目野（日体）
山下（日体） 2 (15—8, 15—11) 0 堀岡（日体）

▽同決勝
来栖 2 (14—18, 15—10, 15—10) 1 山下

▽女子シングルス準決勝
鈴木（専大） 2 (11—3, 11—5) 0 田村（日体）
大塚（埼大） 2 (11—2, 11—0) 0 和泉（東女体）

▽同決勝
大塚 2 (11—1, 12—10) 0 鈴木

▽男子ダブルス準決勝
堀岡 佐藤 2 (15—3, 15—10) 0 杉山 浦野（千商）
中川 山下 2 (15—3, 15—5) 0 山田 中山（日体）

▽同決勝
堀岡 佐藤 2 (5—15, 15—10, 15—5) 1 中川 山下

▽女子ダブルス準決勝
鈴木 遠藤 2 (15—9, 15—18, 15—8) 1 小松 一ノ瀬（東女体）
山田 笠原 2 (12—15, 15—8, 15—3) 1 大塚 深井（埼大）

▽同決勝
山田 笠原 2 (17—15, 15—8) 0 鈴木 遠藤



〔総評〕

初めて試みた合成球採用については、従来の単に「丈夫で長持ち」という理由だけでなく、日本バドミントン協会用具委員会でもその使用についての研究が進行している現在、バドミントンの普及による水鳥球の需要増大、加えて原毛の輸入の困難な現状を考慮し、踏み切ったのである。

その結果は――今まであまりに水鳥球に慣れているため、使用感のギャップは大きく、とくにダブルスでの使用には問題があるように思えた。

「合成球だから負けた」という甘えは通用しないのはもちろんであるが、Bブロックという初心者も数多く出場しているブロックのみに採用したせいか、使用後の感想もまちまちであった。

水鳥球用の原毛を百パーセント輸入している現状から、来たるべく水鳥ショックに備えて、プレーヤーも積極的に、合成球を使用することが望ましいだろうし、それが合成球の品質向上へもつながるのではないだろうか。

次に、今大会の試合内容を振り返ってみると――「新人戦は体力の勝負だ」とは、よく言われる言葉だ。

団体戦も一緒に行なわれるため、フルエントリーの選手は一日に4～5試合も消化することになる。

今年も、そのハード・スケジュールを乗り越えて、久し振りに男女それぞれ三冠王が誕生した。

男子は、中央大学1年の西山博司。

女子は、日本体育大学2年の枝美代子。

西山は第4シードであったが、恵まれた体力と速いフットワーク（正確さも加味され、常にシャトルの下へ入るのが他のプレーヤーより速かったようだ）による力強いショットで、相手を追い込む攻撃的、かつ正攻法のプレーはスケールの大きさを感じさせた。ただ受身の場合に、若干のもろさが見られるが、それを克服した時こそ、西山時代の到来であろう。

ダブルスも、上原（中大2年）のうまいリードで、遺憾なく強打を発揮した。

中大は、団体戦も西山、上原の両車輪がフルに活躍して、危なげなく優勝を飾った。

平野（早大2年）は、決勝で西山に惜敗したものの、ダブルスの感覚を身につけた、数少ないプレーヤーとして期待できる。

しかし、決勝戦で見せた〝ここ一番〟に出る淡白なプレーはいただけなかった。

この二人は、将来の関東学生バドミントン界を担って行く素質を十分に持ち合わせているので、今後の精神を大いに期待したい。

また、小浜（青学大2年）も平野と同様、ダブルス・プレーヤーからの脱皮をはかりつつあるし、準々決勝で上原を降した若生（日体大2年）、北橋（日体大2年）にも期待が持てる。

法大勢の不振の中で、丹藤・楠美（1年）組がベスト4入りしたのは特筆される。丹藤の幅広い攻撃とレシーブに、楠美の力強いスマッシュ力が加味されれば、来年の新人戦では、ダブルスの優勝候補ナンバー1である。

日大勢は、稲垣・伊藤（2年）組だけがベスト4入りを果たしたにとどまった。

女子は、日体大が層の厚さを見せつけ、シングルス、ダブルスとも日体大同士の決勝となった。

団体戦は、日女体大の水沼のアキレス腱切断というアクシデントのため、日体大があっさりと優勝を飾った。

今までは、藤井、松枝、徳永（いずれも2年）の陰に隠れた存在の枝（2年）だったが、今大会は持ち前のパワーにプレースメントのうまさも加わり、徳永を押えて三冠王となった。

徳永は、調子を崩して惜しくも三冠は逸したが、第二の関根、大塚を目指して、ムラッ気を解消して欲しいものだ。

藤井、松枝は、ダブルスには抜群のセンスを持ってはいるが、スマッシュにいま一つの決め手なく、それがミスの伏線にもなっていた。シングルスでもベスト8どまりであり、ダブルス専門という意識を早く拭い去って欲しい。

青木・内田（日女体大2年）も丁寧なプレースメントで、ベスト4入りを果たしたが、破壊力不足が目立った。

東女体大はベスト4入りしたのが柴田（2年）、川島（1年）のダブルスだけという寂しさだった。

柴田・川島組は、またしても藤井・松枝組の壁を破れず、シングルスに至ってはベスト8にも残れず、スケールの大きさがシングルスでは逆に、粗さとなって現われているようだ。

最後に、全体的に見ると、年年選手が小粒（体格ではなく）になりつつあるし、レベルの低さも否定できない。西山という新しいヒーローが誕生したが、これも裏を返せば上級生の非力にある。

また、ユニークな味を持った個性的な選手も少なかった。

男子では法大、日大、女子では日女体大、東女体大が決勝に顔を出さないのは寂しい限りである。

全体的に、トップレベルの層が薄くなり、混沌とした、悪くいえばドングリの背比べである。

1・2年生は、将来のバドミントン界を背負って立つ、というぐらいの自覚を持って精進して欲しいものである。

"STARTING BADMINTON"

これから始める人へ

スターティング・バドミントン

Starting Badminton
by Judy Hashman and C.M.Jones
Japanese language serial rights arranged
with Ward Lock Ltd., London
through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo.

ジュディ・ハッシュマン、C·M·ジョーンズ共著
後藤忠弘訳、栂野尾昌一・悦子協力

7 ネバー・ギブアップ

基本的なストロークが、一応できるようになったら、そこで安心して、ひと息入れてしまったりせず、さらに上達をめざして、新たな努力を開始しなければなりません。

チャンピオンと、月並みな選手は、どこがどう違うのか。それは、もっぱら精神的な面なのです。

世界一になってやろう、という野心。なにがあっても、途中で挫けぬ強い意志。勝ちたい、という意欲。集中力、骨身を惜しまぬ努力。完全を求めてやまない向上心……要は、バドミントンが好きで、だから、そのためにはなんでもする、という気持の違いがモノをいうのです。

勝つための青写真の中で、これら精神的要因の占めるウエイトは、技術上の問題よりもずっと重く、全体の七割にも相当するでしょう。しかし、だからといって、技術を磨き、作戦を練り、コンディションを整える、といった面を、適当にやっておけばいい、というのではありません。

あらゆる点に、最大限の努力を払ってきた、といい得る状態でコートに臨めば、何も心配することはありません。

そのためには、目いっぱい練習し、弱点を克服し、敵を研究し、戦術を練り、起こり得るさまざまな事態を想定して対策を立て、効果的な日常トレーニングを怠らず、用具やウェアなどにも手抜かりがないかどうか確かめ——おわかりですね。

心配（不安感）と緊張（かたくなる）を、ごっちゃにしてはなりません。試合の直前に緊張するのは当たり前なのですから放っておきなさい。それは、試合に臨む準備が出来た、という証拠です。副腎の働きが活発になり、体中の神経が鋭敏になっているのです。

とにかく、準備にベストを尽して試合に臨んだのならば、かりに負けたとしても悔いは残らないはずですし、しょげかえる必要もありません。

しかし、そんな気やすめをいわれてもしょうがない、というのであれば、なぜ負けたのかを反省し、分析してみましょう。すぐさま練習コートに戻り、その原因を取り除く努力を開始しなさい。

それでも、同じ相手と対戦して、二度、三度と負け続けることがあるかもしれません。そのような場合でも、決して〝同じ理由では〟続けて相手を勝たせてはなりません。

自分のミスは、いくら弁解しても、なんにもなりません。りこうな人なら、決して問題から逃げず、失敗や負けいくさからも学ぶのです。

とはいえ、はなっから「どうせ負けるだろう」と思っていたり「しょうがない」と敗戦に甘んじる気持を持ったりしてはいけません。

一球一打、ワン・ポイントに精魂を込め、勝つことを念じてプレーしなさい。精神を集中し頭を働かせ、飛んで来るシャトルが、すべて自分の有利になるようにがんばりなさい。

激しく、長いラリーの応酬のすえに、息もたえだえとなり、心臓は破れそう、目はかすむという状態が訪れたとしても、早まって、ラリーに決着をつけようとしてはなりません。〝一発〟に出て得をするのは相手です。

最後の気力？　を振りしぼって、あと一球だけ、いいリターンを返してごらんなさい。それが出来たらもう一球、さらにもう一球。こうして、がまんしてつないでいれば、必ずチャンスボールが来ます。その時こそ、ためらわずウイニング・ショッ

トを放つべきなのです。

自分が苦しい時は相手も苦しい。あなたも相手も、お互い、自分自身と戦っていることをお忘れなく。ネバー・ギブアップですね。しかし、自分のバドミントンに自信のない人に向かっては、ただ「がんばれよ」といったところで、無理です。

ファイナル・ゲームの7―7というような、きわどい場面で「もし…しさえすれば」などと思うことは、身を滅すもとです。「もう、あと数センチ、この足が前に踏み込めれば、とれたのに」などと、こんな時点で思ってみて、どうなるのでしょう。そんな弱点は、当然、直しておくべきだったのです。あなたは何年バドミントンをやっているのですか。そのくらいの時間がなかったとはいわせませんよ。

目的にかなった周到な準備は技術の上達ばかりでなく、ハイレベルの試合の勝敗を左右する〝精神面の安定〟に役立ちます。

たまには、パーティで夜ふかしをして、知己を広げるのも悪くはありません。しかし、こうした楽しみは一過性のもので、じきに記憶から消えてしまいます。

ところが、負けた試合の記憶、たとえば、第2ゲームの14―12の場面で、自分に予見力があれば、当然、ドロップが来るのはわかったはず。わかっていればそれに先手をとって逆襲に転じることが出来たのに――などというくやしさは、なかなか、消えないものなのです。

どんな時、どんな場面にも応じられるように準備をし、頭を働かせて練習をやることの必要性は、以上でわかったとして、では、具体的には、どういうふうに取り組んだらいいのでしょうか。

等一に、練習の目的を十分に理解して下さい。それは、プレッシャーがかかり、緊張をしいられる場面になっても、練習の時と同じに動くことが出来、打てるようになるまで、鍛えることです。

運動（体の動き）は、電気的刺激が脳から神経を通って、筋肉に伝えられることによって起こります。

脳からの指令は、極微細な回路に〝焼きつけ〟られ、同じ指令が再びあった場合に、筋肉がすばやく反応して、動作を起こすのを容易にしています。何千回、何万回の練習が、機械のように正確な動作の繰り返し、つまり熟練を生むことが、これでおわかりでしょう。

しかし、逆もまた真なり、です。まちがった動作であっても練習によって〝熟練〟します。こうなると、大変やっかいです。まちがって覚えた動作を帳消しにするだけで、ひどく時間がかかるでしょう。

だからこそ、練習のやり方が大事なのです。いいかげんな気持でやって、誤ったことを身につけてはいけない。たとえ難しくとも、実戦の場合同様の集中力をもってやらなければなりません。

〝敵〟がいないとやりにくいというかもしれませんが、目に見える敵より、もっと重要なのは、あなた自身の存在です。

練習には15―10、15―11などというスコアのカウントはありません。でも、自分が目に見えない敵に勝ったかどうかは、自分が一番よくわかるはず。一生懸命やれば、たとえ、ごくわずかでも、この日の練習前よりも「うまくなった」手応えがあるはずです。

自信をもって、そこまでやれた、といえるなら、あなたは、この練習に〝勝った〟のです。これは非常に大切なことです。

チャンピオンは練習から生まれる、というのは、決して言葉のアヤではありません。

練習コートでは、どんな小さなことでも、誠心誠意やりましょう。そうして、ストロークにも動きにも、すべて熟達すれば、実際の試合においても、自動的に、その通りを再現できるようになります。もう、よけいなことに気をつかう必要はありません。あとは戦術や、敵の研究に精力を傾けましょう。

自動車を運転する人ならおわかりでしょうが、慣れないうちは、ハンドルさばき以外の、もろもろのことにも気をつかうので、神経が疲れます。しかし、上達するにしたがって、道路にだけ、神経を集中できるようになります。バドミントンもこれと同じです。

状況判断ができる、つまり、試合の流れや相手の心理などを読めるようになると、その場の雰囲気に押されて、アガったりしないですみます。必要なのはいつも、筋肉に正しい指令を伝えられるようにしておくことです。それには、頭を〝自由な状態〟に置いておかねばなりません。

技術レベルが上がれば、それだけプレッシャーも強くなります。でも、練習を通して、できる限り、そのプレッシャーを軽くするようにつとめ、正しい技術を磨き上げましょう。

ストロークの練習法に、一つの提案があります。それは、一種のストロークの練習だけを長く続けないで、何種類ものストロークを〝同時進行〟させる、ということです。

たとえば、フォアハンドを数分間、練習したら、次はバックハンド、次はサービス、そしてクリアー、というように、変えていくのです。ひとわたり終わったら、このセット（一単位）を繰り返しますが、その時には、ストロークの順序を変えてやったら、どうでしょうか。

一種類のストロークに何分ぐらいかければいいか。その目安は、集中力が続かなくなったら切り上げる、ということに置きます。二セットを終えたら、最後は全ストロークを、実戦形式の練習の中で使うようにします。

22ND ANNUAL CANADIAN OPEN BADMINTON CHAMPIONSHIPS NOV.29-DEC.2 1978 ONTARIO

関根・大塚カナダ・オープンでみごと栄冠

――シングルスでも大塚　銀メダル獲得

男子は苦戦・中井不運の負傷

第22回カナダ・オープン選手権大会は、11月29日から12月2日まで、トロントのセニカ大学で開かれた。舞台装備は見事だった――コートは一面だけ、ミンクラー講堂に作られた。各試合はすばらしく、カナダの人々には、国際的な名選手たちのプレーを見る願ってもないチャンスだった。

カナダ・チームにとって収穫はウェンディ・クラークソンの勝利だった。ウェンディは一九七六年から手にしているシングルスのタイトルを守ったと同時に、混合ダブルス世界チャンピオン、デンマークのステーン・スコブガードと組んで混合ダブルスで優勝した。

男子シングルスとダブルスも前チャンピオンが守り、女子ダブルスは、ユーバー杯をさらった日本からのチームに圧倒された。

今年の大会は10ヵ国から58人の選手が参加、ペプシ・コーラとウイルソンから絶大の支援を受けた。もし万事うまく運べば来年の試合には多額の賞金がかけられるだろう。

次にダブルスの簡単な観戦記を紹介しよう。

男子ダブルス

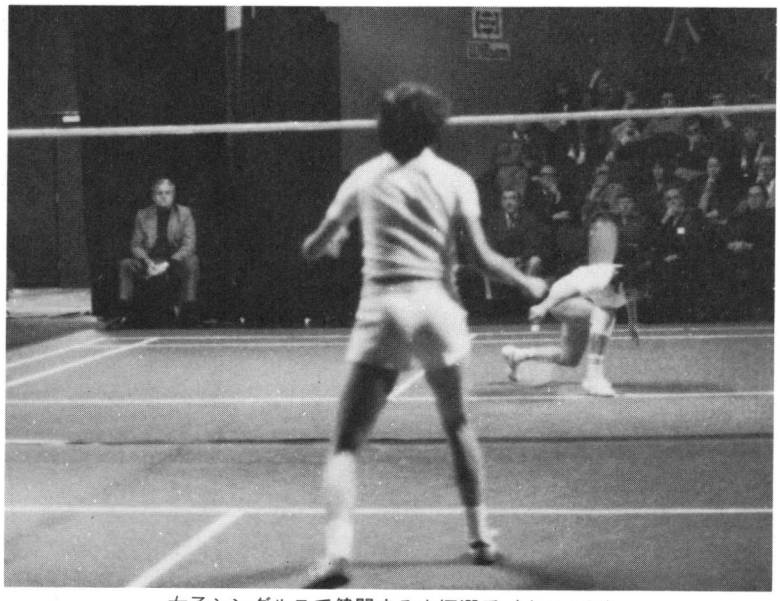
第1ゲーム

大きなラケットを手にした大男――ネット・プレー、そしてラリーにとどめをさす思い切りよい一撃、皆が大いに期待しているステーン・スコブガードの登場だ。

昨年のカナダ・オープンでの彼のダブルスは、とくにいい所はなかった。今年、準決勝でのサーブはよくなかったが、プレーはすばらしい。決勝での第1ゲームでは、よいところがすっかり出ていた。スウェーデンのキールストロムとフローマンがスマッシュを打ち込むと、ステーンはそれを切り返す。彼がスマッシュを打つとラリーに終止符が打たれた。ネットでは、すべてを攻めて、浮いたシャトルを逃がすことはない。デンマークが15―9でとる。

第2ゲーム

キールストロム、フローマン組、出足よく6―1とリード。6―2の時、両チームともサーブが乱れる。ステーンが恐らく最低。キールストロムが最初に立ち直って9―3。その後ステーンのサーブが続いて8―9。フレミングが奮起して10―9。ラッキーなネットインと機を見る目に救われてスウェーデンは14―10、やや雑なプレーで15―10でスウェーデンがタイに持ち



女子シングルスで健闘する大塚選手（向こう側）

込んだ。

第3ゲーム

残念ながら、数か月前の背中の負傷がぶり返して、フレミングは第3ゲームに出場できず、したがってこの試合を失った

（ジョン・ギルバート）

女子ダブルス

さて、女子ダブルスについて書くのは、これが初めて。

とても退屈だと思うことがよくあるが、今日の試合は例外だった。日本人同士の決勝戦になり、大塚ソノエ・関根和子組が秋本幸子・谷美津代組を、15—11、18—14で破った。

この試合について要約すれば《長いラリー》ということになるだろう。その理由は、一般に日本の女子選手は非常に正確で早い、守りが固い、そしてエラーが少ないせいだろう。

試合の間中、どちらの組もたえず声をかけあっている。時にはラリー中にも声を出す。長いラリーの間にはこうしたコミュニケーションが精神の集中を助け、恐らくは、気持の緊張をほぐすことになるのだろう。

最後に感じたのは、どちらの組もお互い敵として戦いながら、プレーを楽しんでいるところがあることだ。しばしば、得点ごとに笑顔が見られ、どちらも大いに嬉しそうだ。

われわれも学ぶことが多いようだ。

（デビット・ドベレ）

混合ダブルス

本大会の混合ダブルスの組合せは、三組のペアと、資格決定戦に勝った一組のペアで行われた。この本大会の規模は、ややがっかりさせられるものだった。観客が見たいはずの試合が資格決定戦であったからである。ケン・プリースツマン、ジョハナ・ファラードウのカナダ組は、ダンカン・ブリッジ、カレン・パティック組にファイナル・ゲームで15—8で敗れる前に、レイ・ロッフェ、カレン・ブリッジのイギリス勢をファイナル・ゲーム18—14で倒している。

資格決定戦の勝者組は、本大会で、トップにシードされていたステーン・スコブガード、ウェンディ・クラークソン組とあたった。トップ・シード組は、第1ゲームでセッティングに持ちこまれたが、第2ゲームで本来の力を見せて、18—16、15—5で勝った。

もう一方の準決勝は、カナダ組同士で、ポール・ジョンソン、クレア・バックハウス組と、ドミニク・スーング、ポーリン・デリール組の間で行われた。観客は大いに楽しみ、ポール、クレア組は第1ゲームを失いいらだってミスを重ねながら辛勝した。

決勝では、いずれも小柄とは言えない二人の男子選手の腕の見せ合いとなるはずだった。しかし、ステーンの技術は圧倒的だった。ステーンとウェンディのサーブはよく決まり、ステーンはサーブの返球にはハーフ・コート・プッシュによって巧みに応えていた。クレアとポールはステーンにサーブができず、得点に苦しみつづけることになった。ネット・プレーは非常に少なかった。どちらの女子選手もネットをずっと離れていたからである。これがカナダ・チームの誤算を招いた。ポールのバック・コーナーへの打球は遅いようだったし、その持前のスマッシュを十分に生かしていなかった。

15—9、15—5のスコアは、ステーンとウェンディにとっては楽な試合だった。

（ダンカン・ブリッジ）

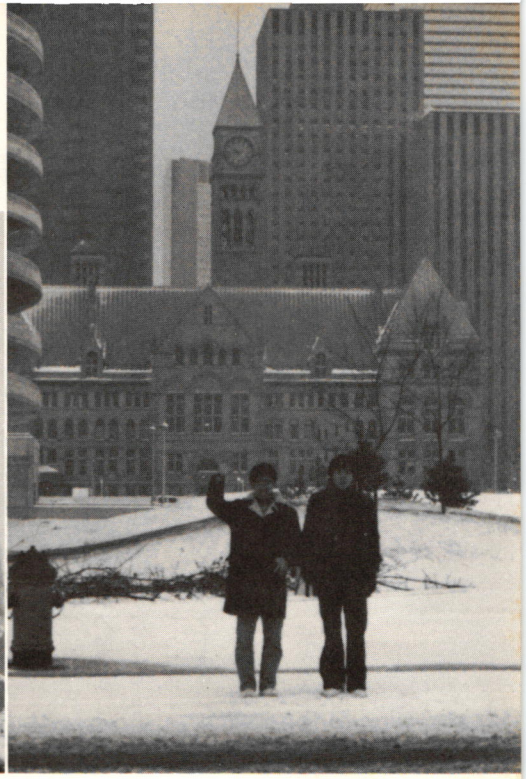


中井選手の左足ギプスが痛々しい

コンパニオンとニッコリの日下選手



トロント郊外で



ガイド嬢をはさんで（写真はすべて日下選手提供）



◆主なスコア

▽男子シングルス
カールソン(S)―中井
マッキー(C)―日下
栂野尾 不戦勝 ファブリ(C)

▽2回戦
デルフ
ス(D) 2 15 15
ゴンザ 0 15 7
レス(M) 2 15 15
栂野尾 0 12 7
デルフ
ス 2 15 15 9 15
カール 1 10 11 15
ソン
キールス
トロム(S) 2 15 15 5
ゴンザ 0 6
レス

▽準決勝
デルフ
ス 2 15 15 9 15
カール 1 10 11 15
ソン
デルス
ス 2 18 15 14 17
キールス 1 16 11 15
トロム

▽決勝
デルス
ス 2 18 15 14 17
キールス 1 16 11 15
トロム

▽女子シングルス2回戦
クラーク
ソン(C) 2 11 11
西尾 0 4 6
ブリッ
ジ(E) 2 11 11
関根 0 8 10
大塚 2 11 11
ブリス 0 0 7
トル(U)
ヤングバ
ーグ(C) 2
谷 0

▽準決勝
クラー
クソン 2 11 11
ブリッ 0 5 4
ジ
ブリッ
ジ(E) 2 11 11
関根 0 8 10
大塚 2 11 11
ブリス 0 0 7
トル(U)
ヤングバ
ーグ(C) 2
谷 0

▽決勝
クラー
クソン 2 11 11
ブリッ 0 5 4
ジ
大塚 2 11 11
ヤング 0 4 6
バーグ

▽女子ダブルス準決勝
大塚
関根 2 15 15 8
西尾 0 15 8
東海林
ヤング
バーグ 2 15 15 10
谷
秋本 0 12 10
バック
ハウス

▽決勝
クラー
クソン 2 11 11 9
大塚 0 8
関根 2 15 15 8
西尾 0 15 8
東海林
ヤング
バーグ 2 15 15 10
谷
秋本 0 12 10
バック
ハウス

▽決勝
大塚
関根 2 18 15 11
谷 0 14 14
秋本

▽男子ダブルス一回戦
トライ
オン
梅野尾
長谷川 2 15 15 9 15
ジョン 1 10 7 15
ソン(C)

▽準決勝
キールス
トロム
フローマ 2 15 18 14
梅野尾 0 10 14
長谷川
ン(S)

▽決勝
キールス
トロム 2 15 9 15
フローマ 棄権 15 10
デルフス
スコブガ 2 15 11 15
ード(D) 1 11 15
カール
ソン(S)
ノルデ
ィン
デルフス
スコブガ
ード(D) 2 15 15 11
1 11 15
カール
ソン(S)

▽決勝
キールス
トロム 2 15 9 15
フローマ 棄権 15 10
デルフス
スコブガ
ード

▽混合ダブルス決勝
スコブガ
ード(D) 2 15 15 9
クラーク 0 5
ソン(C)
ソン
バックハ
ウス(C)
ジョン

〈注：スコアのないものは不明、国名S＝スウェーデン、C＝カナダ、D＝デンマーク、M＝メキシコ、E＝イングランド、U＝アメリカ、日本代表は栂野尾昌一、中井基夫、笠井教行、日下昇、長谷川博幸、秋本幸子、西尾真理子、谷美津代、東海林文子、関根和子、大塚ソノエの11名、なお中井基夫選手はゲーム中にアキレス腱断裂の負傷に見舞われ、直ちに入院・手術。現在は郷里の奈良で加療中であり、経過は良好とのこと。一日も早い回復を祈りたい〉

＝観戦記は「オンタリオ・バドミントン」12月号から＝











昨年の全英選手権、そして中国勢を含めてアジア大会で優勝し、まさに〝Champion of Champions〟のリム・スイ・キンがついにその勇姿を現わした。

攻めるときは徹底して打ち、守るときはカベのようなレシーブを見せる。シャトルに対する眼はまるで〝褐色のヒョウ〟だ。

しかしコートから一歩出ると、笑顔をたやさない二重まぶたの印象的な好青年にもどる。本当に素晴しいチャンピオンのプレーに多くのファンが魅了された。

Bagus!! King

Fantastic

Ade & Christirian

インドネシアではハルトノ、リム・スイ・キンと並んで人気のあるクリスチャン。前衛での天才的なプレー、大きな目をくりくりさせて話す彼は、日本でも人気者になった。

一方のチャンドラも、やや太目の体から力まかせのスマッシュを叩きつける。そして素晴しいジャンプも見せる。〝アディ、アディ〟と呼ぶと人なつこい笑顔を見せてくれる。





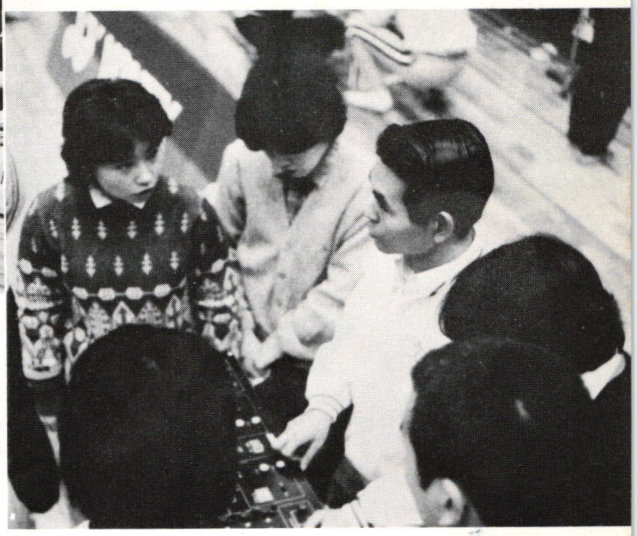
着るもよし。持つもよし。こちらヨネックス感覚。

機能をつきつめたものは美しい。ヨネックスはこの考えを基にして、たくさんのスポーツウエアをおとどけしています。白を基調に、ヨネックスのシンボルカラーであるブルー＆グリーンをアクセントにしたもの、そのほかシャレた色づかいのものなど、種類もサイズも豊富です。年齢や性別をこえ、国境をこえて、トッププレイヤー達の身をつつんでいます。またスポーツバッグにしても、細かい親切設計でデザインされています。同じ型でありながら一週間用、4～5日用、1～2日用など大・中・小とそろえたり、多目的に使えるものもあったりで、選ぶ楽しさじゅうぶん。色は白が中心ですが、濃緑、濃紺、茶などいろいろあります。さて、スポーツシューズもヨネックスの自慢。靴底が機能的な設計ですから、フットワークが生きてきます。スポーツをサイエンスの目でとらえ、そして美しい形を仕上げる芸当。これぞヨネックス感覚です。

YONEX®



記念品贈呈

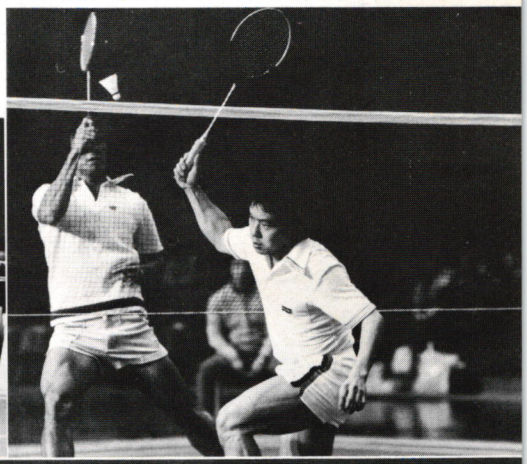


打合せに余念がない

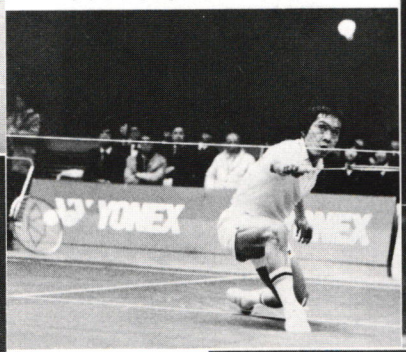


不調のクラークソン

リム・スイ・キンのプッシュが小島のよけたラケットに…



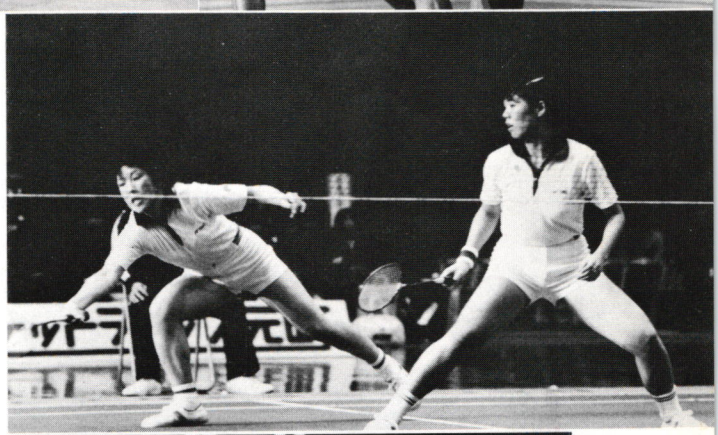
久々の小島らしい〝ガッツ〟





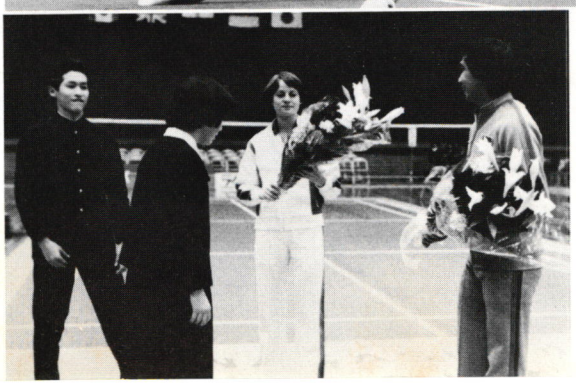
タルボットのがんばり

植野・米倉は楽勝





湯木に完敗のベラワティ



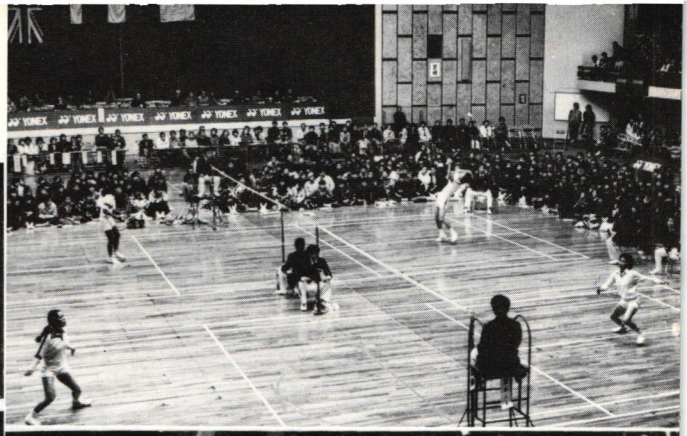
花束は中学生代表から

WORLD CUP '79 NAGASAKI





立見席までお客さんでいっぱい





和服の美人にギルクス、エディも笑顔

スティーブンスもニッコリ







記念品を受け取るリム・スイ・キン

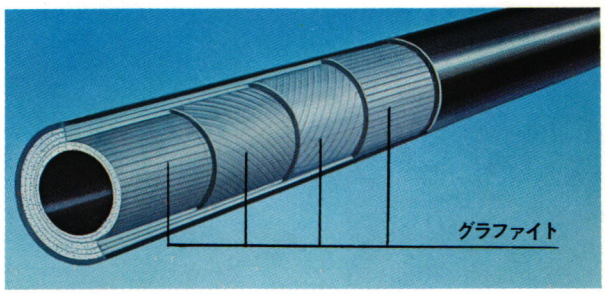


長崎大会出場の各選手
〈写真は長崎県協会提供〉

E RACKET

世界初の100%
グラファイトシャフト

画期的なものを生むためには冒険が必要です。B－82・B-80もこの例にもれません。グラファイトファイバー繊維は異方性にとむ性質で、配列しだいでは性能が大きく変わります。
カワサキはこの難問を独特のクロス加工で解消。方向の異なるグラファイト繊維を4層に重ね合わせ、素材のもつ特性を最大限に引き出しました。これこそ世界が待ち望んでいた理想のラケット。スチールパイプにカーボンをまきつけただけというラケットとは威力が違います。この完成度の高さはカワサキならではのもの。



kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

AFT

B-82

グラファイトシャフト アルミフレーム シルバー(ケース付)
フレーム価格8,000円 ガット張り上り価格8,700円

B-80

グラファイトシャフト ウッドフレーム 黒(ケース付)
フレーム価格7,700円 ガット張り上り価格8,400円

GRAPHIT



スイートスポットの広さがちがう

ALL GRAPHITE SH



2



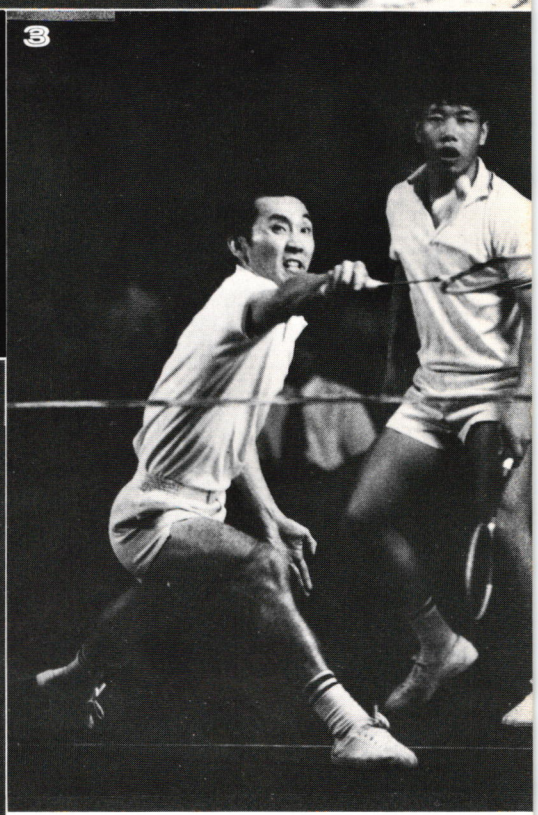
1

インドネシアVS 中国の激突

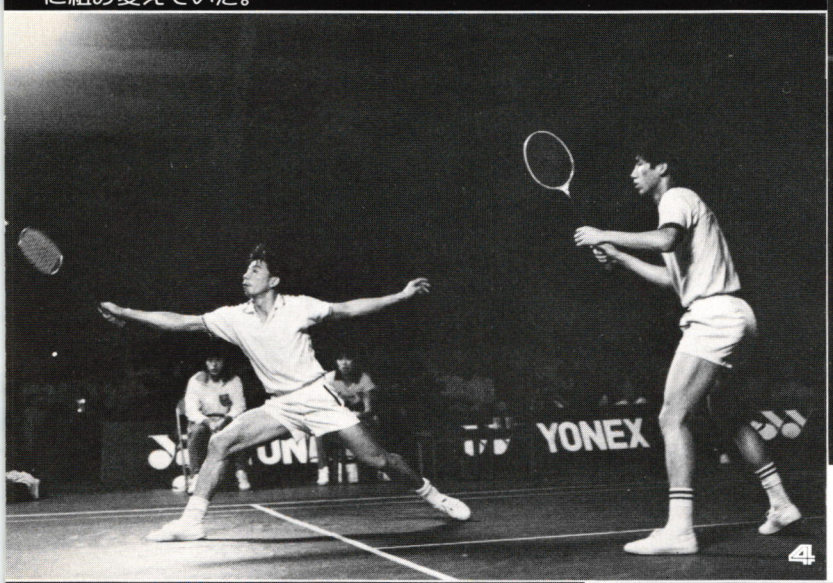
――第8回アジア大会から――

トマス杯チャンピオンの威信をかけたインドネシアと、無冠の帝王＝ＷＢＦの雄・中国は、まさに火花を散らす激突となった。必勝を期すインドネシアは、ルディ・ハルトノ、チュンチュン、ワジュディを欠きながらエース・リム・スイ・キンの活躍と層の厚さで勝った。

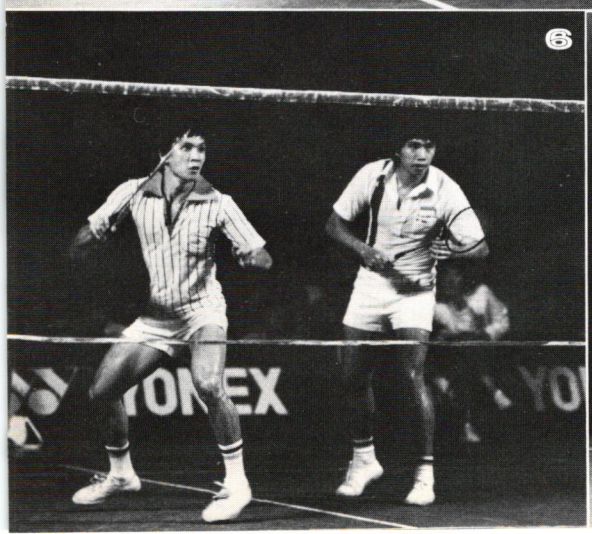
ヒョウを思わせるリム・スイ・キンのラッシュ(1)、試合前の交歓(2)、侯加昌・庚耀東組(3)、湯仙虎・林詩銓組(4)、インドネシアはチャンドラ・ハリヤント組(5)、クリスチャン・キン組(6)に組み変えていた。



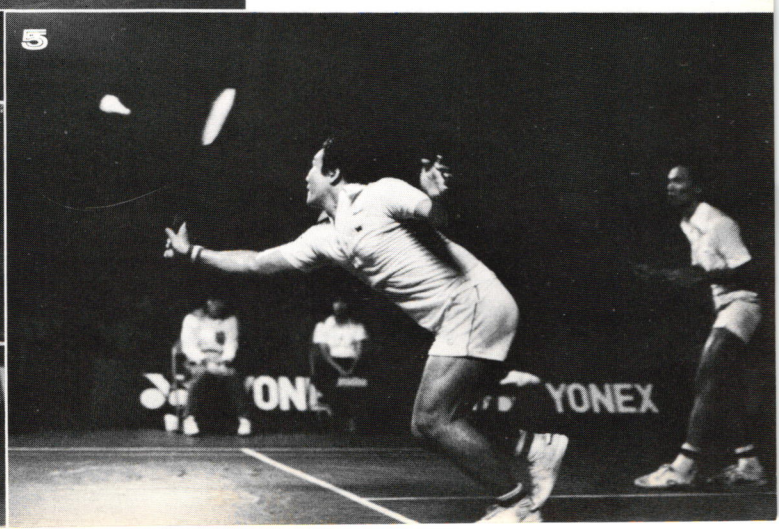
3



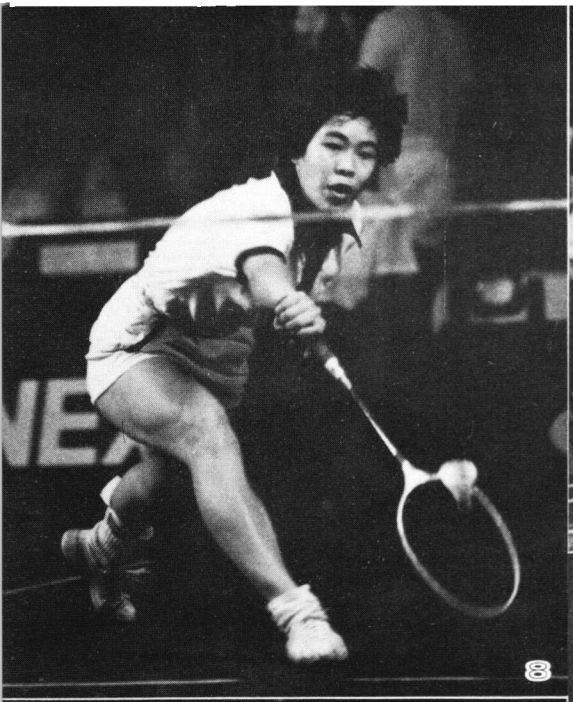
4

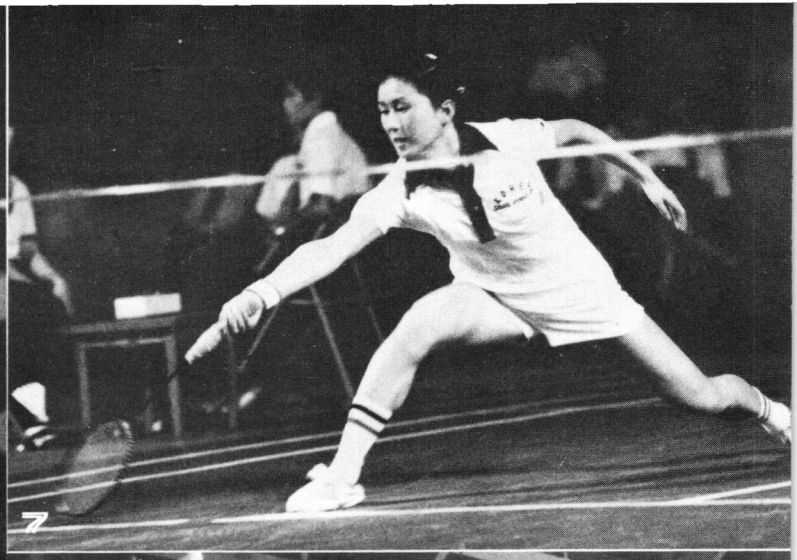


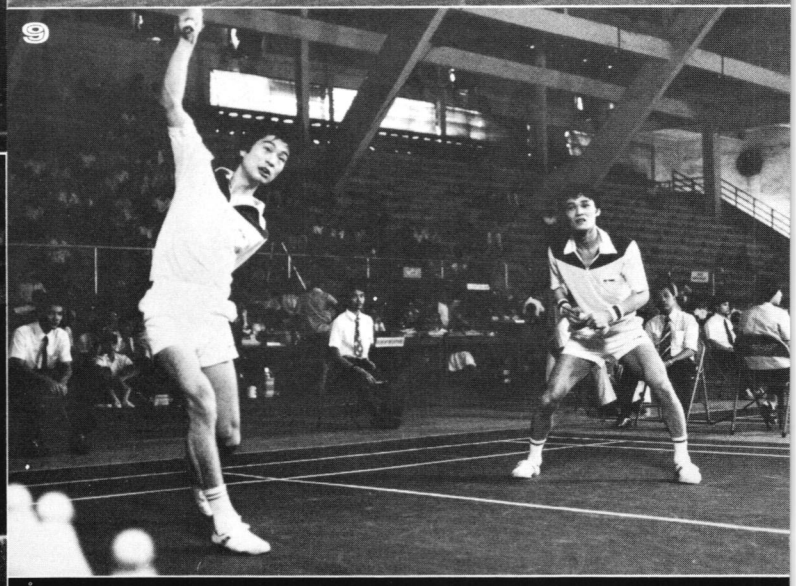
6

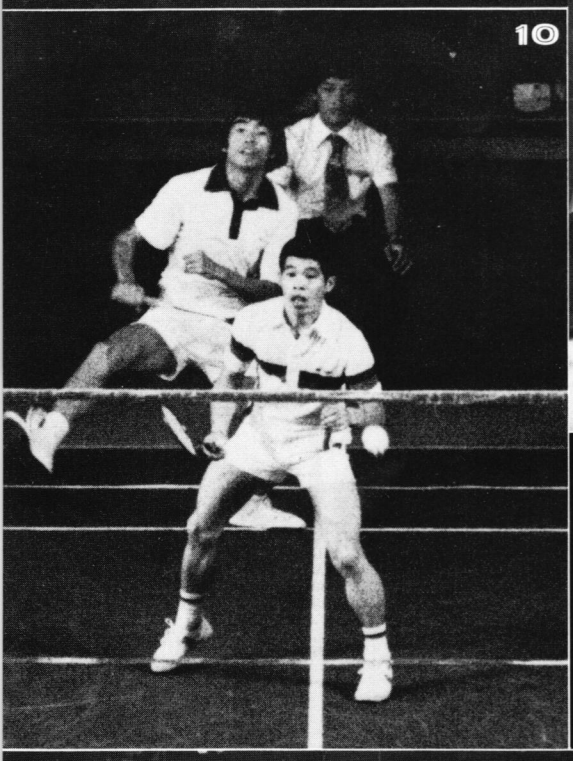


5





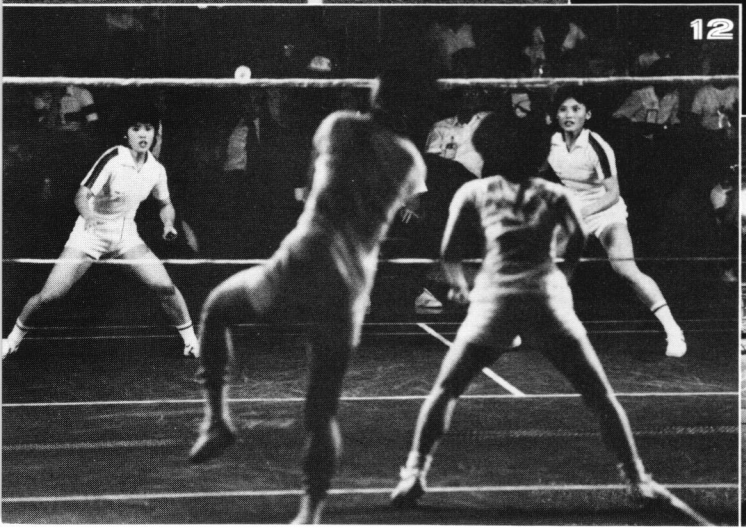


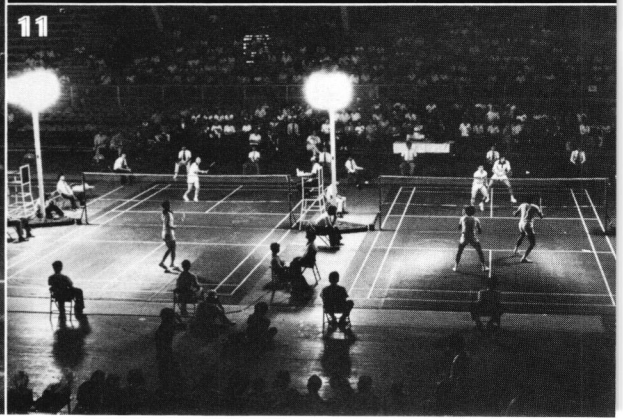


日本メダル獲得できず

日本は女子は金、男子もうまくいけば銅の期待がもたれたが、相次いで敗れ去った。個人戦でも初戦から強豪が立ちはだかり、わずかに近藤がベスト４に残っただけであった。

中国のヒロイン梁秋霞(８)、韓国の宋香順(７)は湯木に個人戦で勝った。飯野・土田組も善戦したが(９)、池田・銭谷組(10)とともに上位進出はできなかった。徳田・高田の全英チャンピオン・ペアも不調そのもの(12)。男子はパキスタンと、女子は韓国と並んで試合をした(11)。







世界のシャトル、RSL

全英大会公認球として有名なRSLのシャトルコックをゴーセンがお届けします。

No.255
RSLコンピート
（ナイロン）
10個　￥2,600
@……￥260

No.256
RSLビクター
（ナイロン）
10個　￥2,450
@……￥245
検定合格球

No.257
RSLグラージュ
（ナイロン）
10個　￥2,000
@……￥200
試合球

世界のコートを翔んだRSLの高い技術を日本のプレーヤーに！

全英大会をはじめ、世界のビッグトーナメントの公認球としてあまりに有名なRSLのシャトルコック。このRSLが開発したナイロン・シャトルシリーズ（ビクター・グラージュ・コンピート）を、ゴーセンが一斉に発売開始。
このRSLシリーズ、性能は水鳥に匹敵するばかりか、耐久力と打球感ではそれをはるかにしのぎ、どんな壁色・採光のコートでも打球の見きわめはパーフェクト。世界のコートを翔びまわったRSLならではのシャトル作りの技術が、日本のプレーヤーをうならせるでしょう。練習・試合にぜひお試しください。

RSLシャトル・モニター募集

■募集人員　20名（多数の場合は抽選）
■申込期限　3月10日（消印有効）
■申込方法
ハガキに①製品名②住所③氏名④学校名もしくは所属クラブ名（会社名）⑤ご利用のショップ名を明記して下記へ。
■申込先
〒540 大阪市東区豊後町4 株式会社ゴーセン
モニターRSL2係　☎06(942)-5816(代)
■発表　本誌4月号に掲載

GOSEN

本社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200(代)



反発の創造。

ゴーセンバド・ガット●ウインテックスシリーズ●ハイ・シープシリーズ

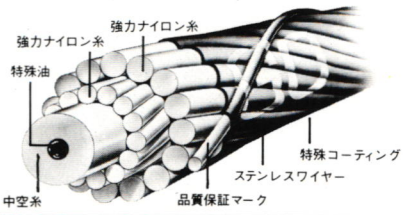
世界に誇るゴーセンのガット技術。

世界15か国でパテントを取得！

世界的なガットスペシャリストGOSEN。その証明は世界15か国におよぶパテントの取得。日本はもとより世界各地のファンを魅了したガットの数々。それはまさにゴーセンならではの技術における《完成度の高さ》を示すものです。

■中空糸・特殊油入り(PAT. 1106964)

糸の芯部分を空洞に。この中空部分が打球に鋭い反発を促進。また打球音・打球感も抜群なものにします。この中空糸の中に特殊油を注入。この油がガット表面に粘着し、油まくがガットを外気（乾燥、湿気など）から守り、ガットコンディションを完全キープ。



■ステンレスワイヤー巻き付け(PAT. 1212170)

ガットにワイヤーを巻き付け。ワイヤーは一定間かくでらせん状に糸に食い込み、ガットを強く張った状態に固定。ガットの伸びやゆるみを防止。強い打球を促進。

このように特許を取った技術の他にもゴーセンは●**カーボン混入**●**ゲージの超細化**など他にはマネのできない技術でプレーの向上に貢献しています。

Wintex WIRE ウインテックス・ワイヤー

No.1900W……¥800 (10m・ゲージ0.85㎜)

●超強力糸●中空・特殊油入り
●ステンレスワイヤー巻き付け

ゴーセンの技術ノウハウをすべて傾注。スーパーガットとして仕上げました。中空・特殊油・ワイヤーの効果がそれぞれに相乗して、抜群の反発力を生み出します。同時にパワーとスピードにあふれた打球をも可能にし、まさにオールマイティ。多様化するバドミントンのプレーテクニックにみごとに対応できるガットです。

油・ワイヤーにより乾燥や湿気もシャットアウト。常にベストのガットコンディションでプレーにのぞめます。



Wintex WIRE モニター募集

■募集人員　20名（多数の場合は抽選）
■申込期限　3月10日（消印有効）
■申込方法　ハガキに①製品名②住所③氏名④学校名もしくは所属クラブ名（会社名）⑤ご利用のショップ名を明記して下記へ。
■申込先
〒540 大阪市東区豊後町4 株式会社ゴーセン
モニターBG2係　☎06(942)-5816㈹
■発　表　本誌4月号に掲載

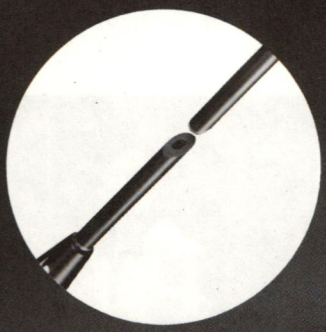
※類似品にはくれぐれもご注意ください。

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎(0762)47-0200(代)


ただいま到着、池袋。どっさり、でっかく東口。
池袋店オープン!
洋菓子のタカセビル6・7階
毎月曜日定休
富士銀行
新日本証券
和光証券
三越デパート
三和銀行
東口
池袋パルコ
西武デパート
池袋駅
豊島区東池袋1-1-4　タカセビル6・7階
TEL.03(989)0401
営業時間（平日）午前10時～午後7時30分
（休日）午前10時～午後7時
日本最大の
テニス・バド専門店
信頼のマーク
WINDSOR
ウインザー ラケットショップ。
●新宿店☎03(363)6848●横浜店☎045(453)1785●渋谷店☎03(464)9251







CARBO DELUXII

S-79

新製品

カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

中国女子 日本・インドネシアを連破

男子はインドネシアがトマス杯保持の力示す

第8回アジア競技大会バドミントン競技は、昨年12月12日から19日まで8日間にわたってタイのバンコクで行われた。

アジア大会には世界バドミントン連盟（WBF）さん下の国も参加しており、ユーバー杯保持国日本、トマス杯保持国インドネシア、そして無冠の王者中国が対戦するという非常に興味深いものとなった。

トマス杯インターゾンに出場が決定している日本は、準決勝で中国と対戦するはずであったが、1回戦で伏兵パキスタンに接戦の末敗れ、早々に姿を消してしまった。

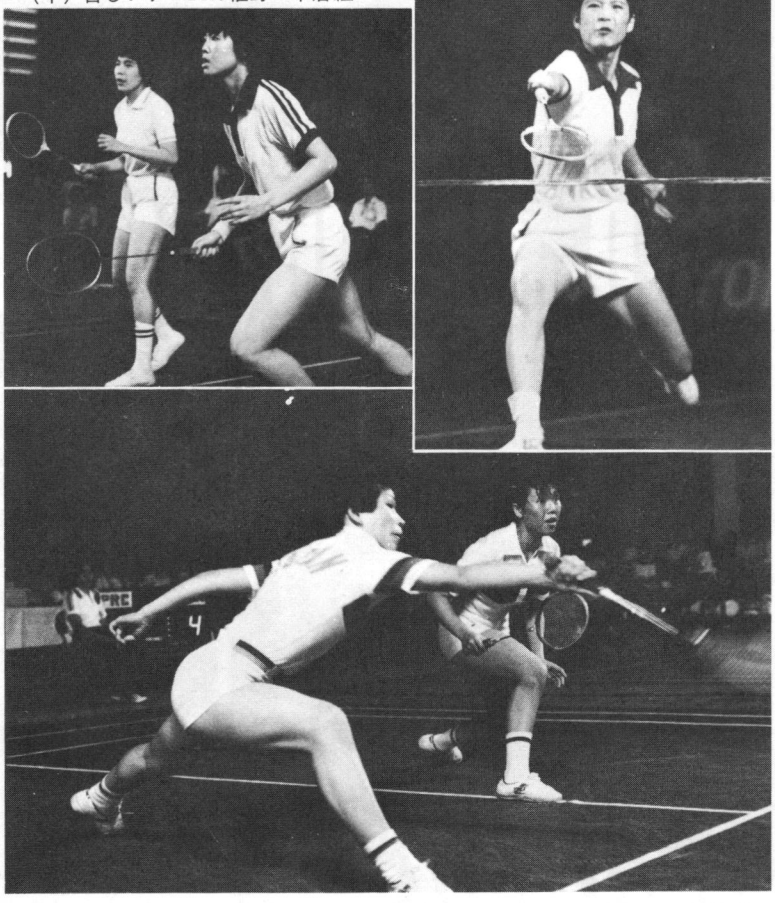
パキスタンは中国とも交流しており、実力をつけてきているのも事実だが、エース銭谷がパキスタンナンバーワンのタリクに敗れたのが最後までひびいた。また、ダブルスも飯野・土田はポイントをあげたが、池田・銭谷の急造ダブルスは通じなかったといえよう。

一方、女子は1回戦で韓国、続く準決勝で中国という厳しい組合せ（アジア大会は、地元有利の組合になることが多く、今大会は各種目にわたってその傾向が強かったが……）で、韓国を降したものの、中国には完敗した。

トップの湯木は梁秋霞を接戦の末降したが、後続なく、とくにダブルスは全英1、2位の徳田・高田組、植野・米倉組がいずれもストレート負けを喫したのは大誤算といえよう。

この結果、男女ともに中国とインドネシアの対戦となり、男子はトマス杯チャンピオンの面目をかけてインドネシアが完勝、女子は、中国がユーバー杯2位のインドネシアをストレートで

（上右）中国の新エース・劉霞
（上左）梁秋霞・張愛鈴組
（下）苦しいゲームの植野・米倉組



あっさりと降した。

◆男子団体戦

▽1回戦

パキスタン 3—2 日本

タリク 2（15—15 / 7—7）0 銭谷
ハッサン 0（7—10 / 15—15）2 土田
シャベド 2（15—15 / 8—5）0 池田
タリク
ハッサン 0（6—7 / 15—15）2 飯野
ザヒド
シャベド 2（15—18 / 10—17）0 飯野

湯木 2（11—11 / 9—8）0 宋香順
徳田
高田 2（15—7—15 / 10—15—8）1 姜幸淑
宋香順
米倉
植野 2（15—15 / 4—7）0 黄善愛
玉卜銀
タイ 3—0 マレーシア

近藤 1（7—12—10 / 11—10—12）2 姜幸淑

▽2回戦

中国 3—0 香港

パキスタン 3—0 ネパール

タイ 3—0 マレーシア

インドネシア 3—1 インド

▽準決勝

中国 3—1 日本

梁秋霞 1（8—11—6 / 11—0—11）2 湯木
丘玉芳
鄭恵明 2（15—15 / 6—8）0 徳田
高田
劉霞 2（11—11 / 6—0）0 近藤
梁秋霞
張愛鈴 2（15—15 / 12—1）0 米倉
植野

インドネシア 3—1 タイ

▽決勝

中国 3—0 インドネシア

◆女子団体戦

▽1回戦

日本 3—1 韓国

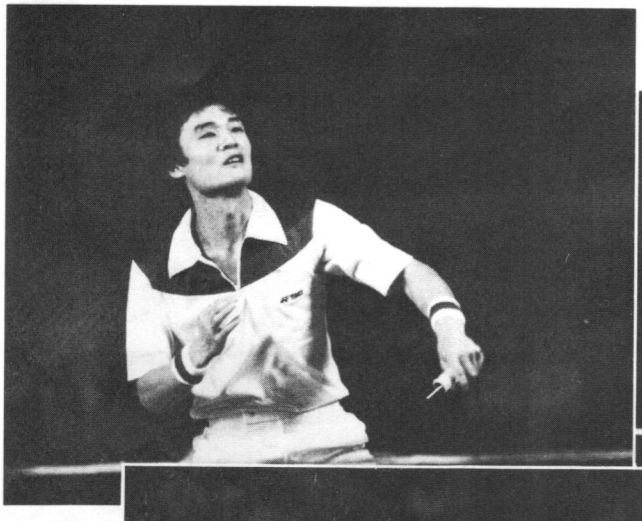
▽準決勝

中国 3—0 パキスタン

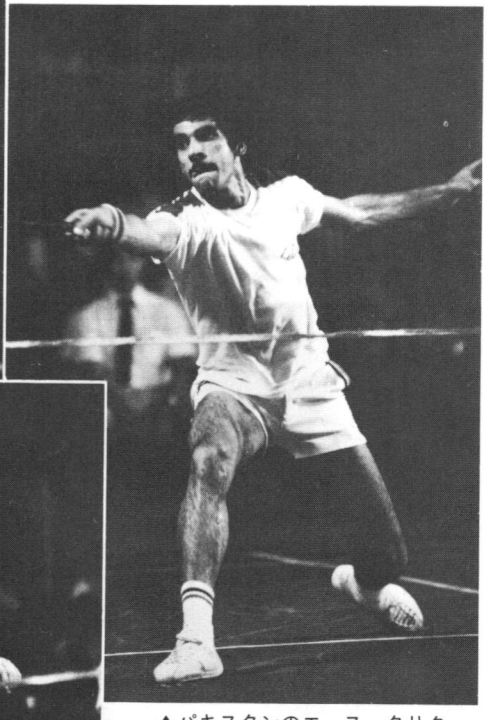
インドネシア 3—1 タイ

▽決勝

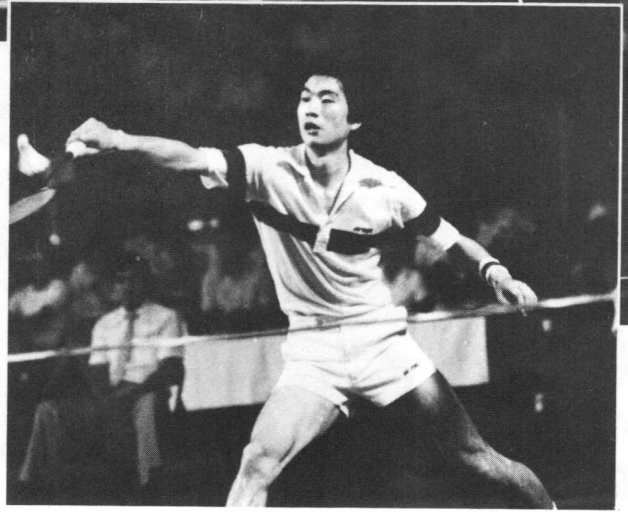
インドネシア 3—1 中国



◀土田は2ポイントをあげたが……



▲パキスタンのエース・タリク



▶苦戦をしいられる飯野

リム・スイ・キン　中国勢を寄せつけず

16日から始まった個人戦でも日本男子は厳しい組合せに苦戦の連続で、初戦に勝ったのはわずかに飯野・土田組だけであった。

シングルスは、インドネシア勢と中国勢がベスト4を独占したが、全英チャンピオンのリム・スイ・キンは快調にとばし、決勝でも韓健をストレートで降した。

ダブルスでも全英2位のクリスチャン・チャンドラ組が圧倒的な強さをみせ、中国のベテラン、侯加昌、湯仙虎のペアを連破して優勝した。

銭谷は、3位にはいったスミラトと、土田も同じく3位の欒勁とそれぞれ1回戦で当たり、ともにストレートで敗れた。

ダブルスも飯野・土田組が2回戦で湯仙虎・林詩銓のペアに第1ゲーム先取にもかかわらず敗れた。池田・銭谷の急造ペアは、いきなりクリスチャン・チャンドラ組と対戦、第2ゲームを取るという健闘をみせ、ファイナルゲームも4―0とリードし、あわやと思わせたが、カベを破ることはできなかった。

男子団体に続き、個人戦もインドネシア男子の強さをみせつけたかっこうとなった。

◆男子シングルス

▽1回戦

スミラト（イン） 2（15―6 15―4） 0 銭谷

欒勁（中） 2（15―9 15―6） 0 土田

▽準々決勝

韓健（中） 2―0 タリク（パ）

ユドム（タ） 2―0 スミラト

欒勁 2―1 プラカシュ（印）

リム・スイ・キン（イン） 2―0 ジャイエン（タ）

▽準決勝

韓健 2―0 スミラト

リム・スイ・キン 2―0 欒勁

▽決勝

リム・スイ・キン 2（15―11 15―7） 0 韓健

◆男子ダブルス

▽1回戦

クリスチャン・チャンドラ（イン） 2（15―8 4―15 15―5） 1 池田 銭谷

飯野 土田 2（15―8 15―9） 0 タリク シャベド（パ）

▽2回戦

湯仙虎 林詩銓 2（15―7 15―6 16―17） 1 飯野 土田

▽準々決勝

侯加昌 庚耀東 2―0 パルト シェド（印）

クリスチャン・チャンドラ 2―0 プレム プラカシュ（ネ）

湯仙虎 林詩銓 2―1 カルトノ・ハリヤント（イン） サリト サワイ（タ）

ハンピン マンヒン 2―1 サリト サワイ（香）

▽準決勝

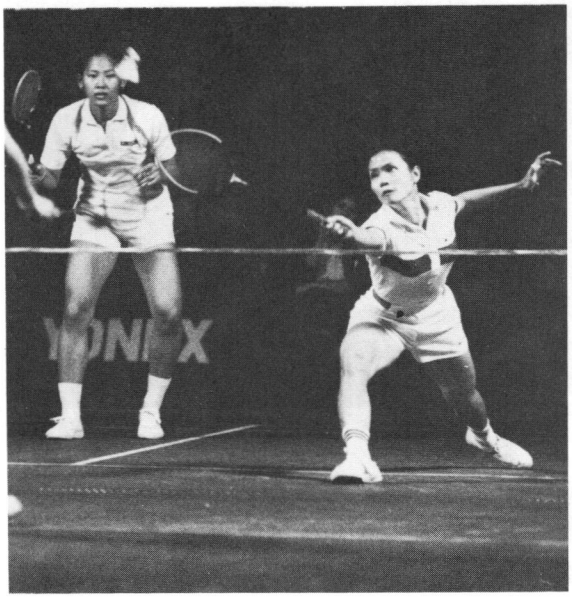
クリスチャン・チャンドラ 2―0 侯加昌 庚耀東

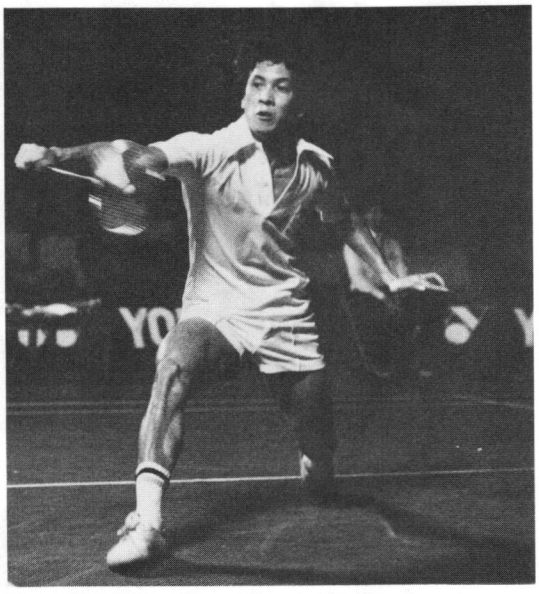
湯仙虎 林詩銓 2―0 ハンピン マンヒン

▽決勝

クリスチャン・チャンドラ 2（15―10 15―8） 0 湯仙虎 林詩銓

▼イメルダ・ベラワティ組も一矢を報いた





▲真のチャンピオンとなったリム・スイ・キン

近藤の健闘およばず

女子個人戦は、日本女子の活躍が期待されたが、近藤がベスト4に入賞しただけで、中国、インドネシアのカベに上位進出を阻まれた。

湯木は団体戦で中国の梁秋霞に勝ったが、個人戦では韓国の宋香順に敗れた。ダブルスは団体戦の不調から立ち直れず、徳田・高田組、植野・米倉組ともに1回戦で敗退してしまった。

中国は、シングルスで圧倒的に優位に立ち、劉霞、梁秋霞が決勝に進出した。そして若手の劉霞が梁秋霞を降して女王の座についた。

インドネシアは、ダブルスで健闘し、ベラワティ・イメルダ組、テレシア・ダマヤンティ組がベスト4に進出。テレシア組は丘玉芳・鄭恵明組に敗れたが、ベラワティ組が決勝でストレート勝ちを収め、一矢を報いた。

また混合ダブルスでは中国の湯仙虎・張愛鈴組がインドネシアのカルトノ・テレシア組を降して優勝した。この種目でも日本ペアは1回戦で姿を消した。

なお、インドネシア男子のルディ・ハルトノ、チュン・チュン、ヨハン・ワジュディの三選手は出場しなかった。

◆女子シングルス

▽2回戦

宋香順（韓） 2（11—6, 11—2） 1 湯木 11—7

近藤 2（11—3, 11—7） 0 ペック（マ）

▽準々決勝

パタマ（タ） 2—0 アミ（印）

梁秋霞（中） 2—0 宋香順

近藤 2（11—7, 11—3, 7—11） 1 姜幸淑（韓）

劉霞（中） 2—0 スリポン（タ）

▽準決勝

梁秋霞 2（11—5, 12—11） 0 パタマ

劉霞 2（11—4, 11—5） 0 近藤

▽決勝

劉霞 2（11—5, 11—6） 0 梁秋霞

◆女子ダブルス

▽1回戦

テレシア ダマヤンティ（イン） 2（15—7, 15—6） 0 徳田 高田

梁秋霞 張愛鈴 2（15—9, 15—9） 0 植野 米倉（中）

▽準々決勝

丘玉芳 鄭恵明（中） 2—0 スリポン ポンシプ（タ）

テレシア ダマヤンティ 2—1 宋香順 黄善愛（韓）

ベラワティ イメルダ（イン） 2—1 梁秋霞 張愛鈴

パタマ トンカム（タ） 2—0 姜幸淑 玉卜銀（韓）

▽準決勝

丘玉芳 鄭恵明 2—0 テレシア ダマヤンティ

ベラワティ イメルダ 2—0 パタマ トンカム

▽決勝

ベラワティ イメルダ 2（15—4, 17—14） 0 丘玉芳 鄭恵明

◆混合ダブルス

▽1回戦

クリスチャン・イメルダ（イン） 2（15—4, 15—12） 0 飯野 植野

リャン ペック（マ） 2（15—4, 15—5） 0 池田 米倉

▽準決勝

湯仙虎 張愛鈴（中） 2—1 クリスチ ヤン・イメルダ

カルトノ テレシア（イン） 2—0 庚躍東 李芳（中）

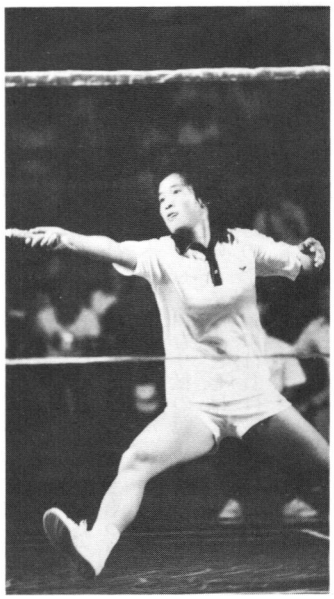
▽決勝

湯仙虎 張愛鈴 2（17—16, 15—8） 0 カルトノ テレシア

〈国名略について・イン＝インドネシア、中＝中国、パ＝パキスタン、タ＝タイ、印＝インド、ネ＝ネパール、香＝ホンコン、マ＝マレーシア、韓＝韓国〉

参加国＝12カ国 中国、ホンコン、インド、日本、韓国、マレーシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ）

孤軍奮闘の近藤





◀ ホテルを出発する日本チーム

いつまでも〝アジア軽視〟でよいのか



アジア大会開会式

第八回アジア競技大会のバドミントンは、ちょっと大げさに言えば、世界のスポーツ界にとって画期的な出来事だった。なにしろ、IBF（国際バドミントン連盟）とWBF（世界バドミントン連盟）という二つの相反する国際組織が一堂に会して試合をやったのだから……。

イスラエルを警備上の理由で〝政治的に〟締め出した今大会に対し、国際陸上連盟が「出場した選手は処分する」と警告したのとは対照的に、バドミントンは建て前を貫くのではなく、あくまでも現実的な考え方に立って二つの世界の問題を見事に解決した。タイのある役員が言った「組織はどうだっていいじゃないか。大切なことは、アジアのすべての国が集まって世界最高レベルの試合をやればいい。それによって誰も困ることはないのだから…」という言葉が、アジアのバドミントン愛好者すべての気持を現わしていた。

台湾問題がこじれてIBFへの加盟に失敗した中国が、タイなど十九か国を集めて新らしい国際組織、WBFを結成したのが昨年二月。それ以来、バドミントンの国際組織は二つに割れたままだった。

日本は、中国のさそいを断るかたちでIBFに残留したため、一九七三年から続いていた日中交流は、二年間とだえたままになっていた。だから、日本にとっても、この大会は中国の力を見る絶好のチャンス。そして女子団体戦の準決勝、日本―中国の試合がIBFとWBFの女王同士の対決として最大の注目を浴びた。

一万五千の観衆が見守る中で始まった試合は、第一シングルスの湯木―梁秋霞戦で早くも盛り上った。過去この二人は四回対戦して湯木がいずれも負けていたため、両国ベンチとも梁秋霞の勝ちを予想したのだが、湯木はスタートからたんねんにタマを散らして梁秋霞を振りまわし、じっくり攻めて、11―6。第2ゲームは梁が反撃して0―11と完勝したが、このあたりから梁に疲れがみえ、最終ゲームは湯木がそこをうまくついて11―8で勝った。

「もう私の競技生活で、中国とやることはないかもしれない。梁には負け続けていたので、何としても勝ちたかった。自分でもよく動けたと思うけど、あきらめないでがまんすることがバドミントンの原則なのね」と息をはずませながら言った湯木。

しかし、日本の意気が上ったのもここまで。続く近藤はベテランの劉霞に11―0、11―6で完敗「勝負にならないわ」とカブトをぬいで引きあげてきてから中国のペースとなり、日本が頼りにしていたダブルスも、中国のベテラン・ペアになすすべなかった。

「中国は二年間交流しなかった間にまた強くなった。より速く、より高く、より強くというバドミントンの原則をよく守っている。ダブルスはインドネシアの男子のようなスピードとパワーだ。日本も速いプレーになれるようにしなければ…」と小飼監督。

中国選手の成長ぶりの中で、最も目立ったのはリターンのうまさだ。返すタマのコースが実によく、守っているのがいつの間にか攻めている格好になって相手を追いつめていく。湯木に言わせると「中国選手は一見へボな格好で打っているけど、どうしてあんないい所に決まるんだろう」ということになるのだが、スタイルはともかく、反射

第8回アジア競技大会を取材して——

小林範夫　読売新聞運動部



梁秋霞にせり勝った湯木

的にシャトルの動きに反応する訓練が十分に出来ているようだ。

「ありがとう。中国はまた一段と強くなりましたね。我々は大へん勉強になりました」伊藤コーチが中国チームにお祝いにかけつけると、王文教コーチも「日本こそ強くなりました。わたしの方こそ学習しました」と手をさしのべる。

組織は違っても、バドミントンを愛する気持は同じだという両チームのさわやかな交歓に、目の肥えたタイの観衆から盛大な拍手が起こった。

一方、男子団体は〝無名の〟パキスタンに一回戦で敗れるという番狂わせを演じた。厳密に言えばこのカードのみが一回戦だったから、参加九か国中の最下位ということになる。第一シングルスの銭谷がパキスタンのNO1、ワードッド・タリクに手もなくやられ「エンジンがかからないうちに負けてしまった」とくちびるをかんだのが劣勢に陥るきっかけで、以後接戦を続けながら、最終戦までもつれたが、ついに勝てなかった。

この試合、果して番狂わせだったのだろうか。そしてパキスタンは果して本当に〝無名〟だったのだろうか。実は四年前のテヘラン大会の一回戦で日本はパキスタンに3—0で負けている。にもかかわらず、試合前の選手の表情には危機感はなかったように思う。「まともにやればパキスタンなんか…」とでも考えていたのだろうか。

銭谷を破ったワードッドは、前回の大会ではNO3シングルだった。それが今回はNO1になったのだから、パキスタンも進歩したとみなければならない。なのに、そんな警戒心はまったくなかった。

もちろん、選手だけをせめるわけにはいかないだろう。現在の日本協会の選手強化の方針は、はっきり言ってヨーロッパ志向型だ。中国と一応交流を断っている今、ヨーロッパ中心になるのはある程度やむをえないことかもしれないが、アジアの他の国を軽視した結果が最下位という不振につながったと見ることが出来よう。

バドミントン会場のバンコク国立競技場第一体育館で目撃した光景だが、中国の大物コーチ王文教氏が、アジアではバドミントンの小国といわれる国のコーチたち（主としてWBFのメンバー国）を集め、私的な研修会のようなことをやっていた。IBFに対抗してWBFの国を強化しようという意図の現れともとることが出来るが、そんな政治的なことよりも、アジアのすべての国々がバドミントン技術の向上に熱心だということの現れとみる方が正しいだろう。

聞けば中国は、指導力のあるコーチをアジアの各国に派遣してアジアのレベルの向上を計っているという。日本にそれと同じことをやれというわけにはいかないだろうが、少くとも、これまでアジアで問題にされなかった国々も、それなりの努力を払っていることを忘れてはならないだろう。

日本的な見方をすれば、タイや香港は「過去の栄光のみを大事にしている老いたる国」ということになるのだが、たとえば香港の男子トップダブルス、タイの女子をリードしているベテランのトンカムなども、まだまだ十分世界で戦える力を持っている。これはバドミントン競技に限ったことではないが、「アジアの競技力」を軽視すると、結局は足をさらわれることになるだろう。

1979年 全英選手権 視察団募集中!!

旅行期間：昭和54年３月18日(日)～３月30日(金)

総 費 用：￥435,000（トラベルローン利用可）

日本バドミントン協会では昨年にひき続いて上記視察団を企画、主催いたします。
世界の檜舞台で活躍する日本選手団を応援し，合わせて全世界の優秀選手のプレーを観戦する絶好のチャンスではないでしょうか。
皆様のご参加をお待ちしております。

ご 日 程

目次	月 日(曜)	地 名	現地時間	交通機関	予 定
1	昭和54年 3月18日(日)	東京(成田)発 コペンハーゲン着	昼 夜	航空機	着後：ホテルへ （コペンハーゲン泊）
2 〜 3	3月19日(月) 〜 3月20日(火)	コペンハーゲン			市内見学及び バドミントンクラブ訪問 （コペンハーゲン泊）
4	3月21日(水)	コペンハーゲン着 ロンドン 着	朝 昼	航空機	着後：市内見学 （ロンドン泊）
5 〜 7	3月22日(木) 〜 3月24日(土)	ロンドン			全英選手権観戦及びバドミントンクラブ訪問 （ロンドン泊）
8	3月25日(日)	ロンドン 発 パ リ 着	朝 昼	航空機	着後：市内見学 （パリ泊）
9	3月26日(月)	パ リ			終日：自由行動(パリ泊)
10	3月27日(火)	パ リ 発 アテネ着	朝 昼	航空機	着後：市内見学 （アテネ泊）
11	3月28日(水)	アテネ			終日・自由行動(アテネ泊)
12	3月29日(木)	アテネ発	夕	航空機	
13	3月30日(金)	東京(成田)着	夜		着後解散

ご旅行条件

○総費用に含まれるもの
(1)全行程エコノミークラス航空運賃
(2)各地における空港／ホテル間の特別バス運賃
(3)ご日程に記載の各地市内見学及び試合観戦時のバス、ガイド料金、入場料金
(4)各地における一級ホテルの２人室（原則としてバス、トイレ付）にお２人の宿泊料金および税・サービス料金
(5)毎日の朝食と市内見学時の昼食料金及び各都市到着日の夕食料金
(6)お1人1個ずつのスーツケース運搬料金(20kg)
(7)団体行動中のチップおよび空港税
(8)全英選手権の入場料

○総費用にふくまれないもの
(1)海外渡航に要する費用：印紙代、予防接種、旅行保険、手数料(￥3,000)
(2)上記の食事条件に含まれない食事、および全行程のお飲み物代
(3)その他、個人的性質の諸費用(チップ、電話、クリーニング代など)

○全行程に渡り添乗員がお伴して、ご斡旋致します。

※募集人員は25名と致します。尚、お申込み金、お取り消し料、予締切日等につきましては別途御用意するパンフレットを御参照下さい。

お問合わせ及びお申込みは

〒160 東京都新宿区西新宿1-18-8 スカイビル内
㈱日本交通公社国内・海外団体旅行新宿支店

担当「1979年バドミントン全英選手権視察団」
木本グループ：大野・金田、Tel:03-346-2913

主催：日本バドミントン協会　旅行取扱い：日本交通公社
国内・海外団体旅行新宿支店



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

ゲーム内容を・ひと目で・正確に・分析できる

スコアシートの〝実験〟

†共同通信社　竹市行男

国際バドミントン連盟（IBF）公認の「ワールドカップ79」は、1月21日に無事終わった。この大会の観戦記や反省文などは、協会役員や報道陣から寄せられると思う。

私はこのビッグイベントでひとつの〝実験〟を試みた。その〝実験〟とは、会場でプログラムをお買い求めの方ならその何人かの人は気がついたと思うがスコアシートをつけることである。この思いつきは昨年の全日本学生選手権で試みようと思ったのだが、一番便利で間違いのない方法がなかなか見当らず、〝お流れ〟となった。そこで全日本総合選手権で試案を作り、選手の諸君に手伝ってもらい実際に試合のスコアを採ってみた。そこで彼らの貴重な意思を参考にしてもう一度フォームを作り直した。（プログラムに掲載したフォームは、全日本総合選手権当時のもの）

この〝実験〟は手前みそといわれるかも知れないが成功したとはっきりいえる。

21日、代々木第二体育館は大会役員がびっくりするほどの観衆であふれていた。約三千五百人は確実といわれる人波。体育館の事業部でさえ「バドミントンってすごい動員力だ」と驚くほどだった。さてこの人々の一様に注目を集めたのが〝幻のプレーヤー〟といわれる男子シングルスのリム・スイキン（インドネシア）と〝ヨーロッパのプリンス〟といわれるフレミング・デルフス（デンマーク）の対決。女子ではダブルスの全英選手権、オールジャパン選手権優勝の徳田・高田組（サントリー）対インドネシア組の対戦。前者はデルフスが伏兵のスミラット（インドネシア）に敗れ、リム・スイキンースミラットのインドネシア勢、後者は徳田組が完敗したかわりに日本のNO2ペア、植野・米倉組（ヨネックス・電電東京）が勝ち残り、世界NO2のイメルダ、ベラワティ組（インドネシア）との顔合わせになった。

この一戦、満員の観衆を魅了するに十分な試合内容だった。男子シングルスはやはりリム・スイキンが、女子ダブルスは開催国日本の期待を一身に集めた植野組が完勝した。ところで試合の得点経過は、どんなプレーで勝利を握ったのだろうか―。この質問に正確に答えられる人は、約三千五百人の観衆の中に何人いるだろうか―。一日、二日と時が過ぎるに従い記憶は薄れ、一ヵ月も過ぎるとほとんどおぼえていることは〝0（ゼロ）〟に等しくなってしまう。残念なことだが…。コートで試合をしたプレーヤーでさえそうである。勝ち、負けはわかってもよほどショッキングな事でもなければおぼえていない。

だが、スコアをつけていればどうだろうか。それが簡単で正確ならばスコアシートさえなくさない限り統計をとり、何回も何回も繰り返し頭の中で試合展開を再現できる。自分だったらこの場合どのようにするか、あのストロークを打つにはどうしたらいいのか、ミスプレーはどんなケースが多いのかなど自分の技術向上にも大いに役立つと思う。私自身がバドミントン担当記者として十余年間を過ごした。が、ユーバー杯やトマス杯そしてオールジャパンのごくわずかしか記録をつけてない。商売柄、こまめにスコアシートをつけなければ、つければもっと別の視点で正確で、誰れにも理解でき、バドミントン技術の進歩発展に少しでも貢献できるのにと思いながら今日に至ってしまった。

さて、21日の男子シングルス決勝の〝ヤマ場〟を選んで試合の模様を振り返ってみよう。

▽男子シングルス

第1ゲームの先取点はスミラットがうまく攻めた。三度目のサーブ権でリム・スイキンのバックハンドのヘアピンがネットとなり先行。1オールとなったのはスミラットのフォアハンドのスマッシュがエンドラインをオーバーして追いついたもの。その後、リム・スイキンはフォアハンドのスマッシュで2―1、相手のフォアハンドのスマッシュがエンドラインをオーバーし3―1、フォアハンドのヘアピンを決めて4―1、バックハンドのスマッシュを決めて5―1、6点目も同じバックハンドのスマッシュをたたきつけて6―1といずれもサーブ権を渡さず連取した。リム・スイキンはその後、スミラットにフォアハンドのスマッシュをあびて6―2。だが三度目のサーブ権を費した7点目は、相手のフォアハンドのクリアがエンドラインを割り、さらにフォアハンドのプッシュが相手の逆を突いてエースの8―3。その後は2点を自分のリターンミスで失い8―4。サーブ権を奪い返すと相手のヘアピン、スマッシュミスで10―4。ここでリム・スイキンは一服した感じ。サーブ権を失うとフォアハンドのクリアがエンドライ

ンを割り、ヘアピンのエースを取られ、スマッシュが長くなった。さらにプッシュがネットにひっかかり10―8とその差わずか2点差。

だがさすがに名手である。スミラットのフォアハンドのスマッシュミスをきっかけに、フォアのスマッシュ相手のヘアピンのミスと強烈なスマッシュのエースで14―8。ゲームポイントは焦ったスミラットのフォアハンドのスマッシュがネットにひっかかり15―8。このゲームでリム・スイキンはサーブ権20回で15点のサーブ成功率7割5分。自からの攻撃で7点を奪い8つの相手のミスプレーで15点をマークした。8失点は自からのミスが6、スミラットにエースを取られたのはわずかに2本だった。

第2ゲームはリム・スイキンが5―4とリード。だが何と7回のサーブ権を5オールに費したスミラットがリム・スイキンのフォアハンドの高いクリアのサイドライン・アウトで追いついた。そして余勢を駆ってフォアハンドのスマッシュのエースで逆に6―5、相手のヘアピンがネットにかかるミスで、7―5。スマッシュがネットにかかるミスで8―5と点差をひろげ出した。全英選手権、アジア大会優勝のリム・スイキンはここまでの8失点中自からのミス・プレーが7、スミラットにエースを取られたのがわずか1と守りで乱れた。ミスプレー7は、スマッシュが5、クリア、ヘアピン各1。ネットにひっかけたのが6とストロークの安定度のいい彼にしては考えられないような試合展開だった。普通のプレーヤーならまだ自滅状態が続くが、冷静なリム・スイキンはフォアハンドのスマッシュで6点を奪うと6度目のサーブ権を得た7点目の攻撃でドロップショットを打ち込み、スミラットの低いクリアをネットにかけさせた。

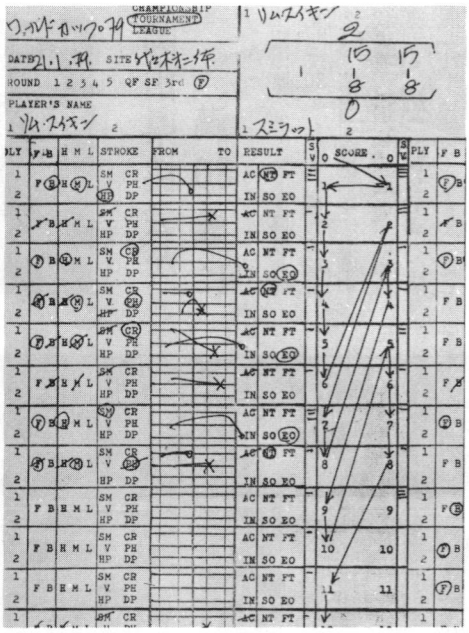
7オール後はフォアハンドクリアをフェイント気味に決めて再び試合の主導権を奪回した。活気づいたリム・スイキンはバックハンドのプッシュをコート中央へ。その後ゲームポイントを握るまでの試合展開と内容は相手ミス、スマッシュ、スマッシュで12―8、相手ミスとスマッシュで14―8とすると左右にスミラットを振り回し、バックハンドのヘアピンのミスショットを誘い出して15―8と完勝した。このゲームはスミラットの奮起、自からの守備の乱れで26回もサーブ権を握って15点を取ったもの。サーブ成功率は当然低く5割7分7厘。1・2ゲーム通算で6割分2厘。一方のスミラットは、19回のサーブ権で8得点。1、2ゲーム通算34回のサーブ権で16得点の成功率4割7分。リム・スイキンは2ゲーム目で15得点したが、自から攻めて8点、相手のミスで7点。8失点は自分の乱れが7点、スミラットのエースはわずか1点だった。試合後「第2ゲームはレシーブがまずくてベストの試合ではない」と語ったが、確かにこのくらいのランクのプレーヤーでは自からのミスが墓穴を掘る最大の原因とされる。

▽女子ダブルス

ちなみに植野組―イメルダ組の記録をご紹介しよう。優勝した植野組は第1ゲーム15―3、第2ゲーム15―7。植野組は第1ゲームで18回のサーブ権で15得点、成功率8割3分3厘の高率。第2ゲームは20回で15得点の7割5分。通算は38回の30点で7割8分9厘と驚くような成績を残している。一方のイメルダ組は3割7分5厘（3/8）7割（7/10）で通算が5割5分5厘（10/18）。

植野組の得点は第1ゲームが自からの攻撃で3、相手の失点が12。第2ゲームは攻撃で5、相手の失点10。では失点は―。第1ゲームが攻撃ミス1、相手の攻撃でエースを奪われたのが2。第2ゲームは自からの攻撃ミスが4、相手の攻撃でエースを与えたのが3という完璧なまでの試合。通算得点30中、自からの攻撃で得点したのは8、相手のミスによるもの22。失点10中、自からの攻撃ミス5、相手の攻撃によりエースを取られたのが5だった。スコアシートによると植野と米倉、イメルダとベラワティの得点プレー、失点プレー、その内訳がひと目で分析できる。このスコアシートはナショナル・チームのプレーヤーから実業団、大学、高校、中学校、ママさんまで広範囲のプレーヤーに使われ、プレーヤーの特長、欠点やどんなケースで乱れるかなど技術、精神力、心理面などでの強化に貴重なアドバイスを与えられるものである。

（スコアシートの複製、転載は筆者の了解を求めてください）



リム・スイ・キン対スミラット戦のスコアシート（部分）

読者と編集者

岡山県協会が満30歳に

岡山県バドミントン協会が発足して30年となり、暮れの12月2日、岡山国際ホテルに近県の代表者、県内外の関係者85名を迎えて、記念祝賀会が盛大に開催されました。

アジア大会参加を控えて大変忙しい湯木博恵さんもかけつけ、出席者はそのスピーチに耳を傾けていました。

また第3回アジア大会優勝の松王清志さんも出席され、昔話に花が咲き、こういう会なら一年に一度やったらどうか、など話はつきず、予定の時間をとっくにオーバー。

司会者は困惑して、再三気の毒げに閉会を告げていました。

このようにして30周年記念祝賀会を終了しましたが、大変お忙しいところご出席いただいた皆様には、ここに誌上をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

（協会幹事記）

大学のプレーヤーの就職先は？

新年あけましておめでとうございます。

さて、ぜひバドミントン界で次のような特集をしてほしいのです。

それは78年度に大学、高校で活躍した選手（たとえば長谷川（中大）菅・米山（中大）高橋（日大）大塚・関根（日体大）吉村（一条）本石（九州学院）選手）たちの、就職先、または進学先を特集してほしいのです。

どうぞよろしく。ボツにしないでください。

（横浜市南区・今野宗明）

▼ボツにはしません、ご安心を。とりあえず学生連盟の方に、おもだった選手の就職先をリスト・アップしていただきました。1月20日現在ですので〝未定〟の人もあります。なお、学連とは、全日本学生連盟・関東学生連盟など大学生の運営組織で、いってみれば大学生のプレーヤーがプレーに専念できるように支えている〝縁の下の力持ち〟です。

（編集部）



祝賀会のようす

長谷川博幸（中央大学・主将）ヨネックススポーツ株式会社
米山孝二（中央大学）電信電話公社北海道支局
菅敏明（中央大学）関東自動車工業株式会社
高橋俊則（日本大学・主将）自営
鏑木智博（日本体育大学）群馬県教員
平野慶一（日本体育大学・主将）未定
鯨吉夫（日本体育大学）日本体育大学研究員
森下一夫（慶応義塾大学）サントリー株式会社
関根和子（日本体育大学・主将）ヨネックススポーツ株式会社
大塚ソノエ（日本体育大学）ヨネックススポーツ株式会社
金田里子（日本体育大学・主務）未定
原田美智子（日本女子体育大学）未定
小寺裕子（日本女子体育大学・主将）未定
武居陽子（日本女子体育大学・主将）未定
沢内真由美（東京女子体育大学・主将）河崎ラケット工業株式会社
島崎佐恵子（東京女子体育大学・主務）未定
滝川修（中央大学・主務）山梨県教員
山本幸裕（日本大学・主務）未定
林健二（立教大学・全日本学生バドミントン連盟委員長）株式会社・ワコール
佐々木真（早稲田大学・関東学生バドミントン連盟委員長）ダイハツ工業株式会社
高橋清治（日本体育大学・関東学生バドミントン連盟副委員長）埼玉県栄高校教員
青木智子（日本女子体育大学・全日本学生バドミントン連盟会計）未定
川村泰子（日本体育大学・関東学生バドミントン連盟副委員長）未定
長谷川綾子（東京女子体育大学・関東学生バドミントン連盟会計）未定

ご協力を!!

バドミントン界昭和52年11月号お持ちの方、ぜひおゆずりください。お礼いたします。

（〒033青森県三沢市桜町3—1—9神隆）

FROM EUROPE
ヨーロッパ情報

レイン・グランプリ

地元男子に二冠

レイン・グランプリ・サーキットの第3トーナメントは、グロースター特別行事委員会の主催、土曜には五百人を越す観客を集めた。

地元の誇り

観客にとって、全トーナメントは、声援の送りがいのある試合が多かった。金曜の夕方、「地元」トニー・ドルアリイ＝Y・ヤング組は、マイク・ウィルクス＝ピーター！・バリヴァント組を第3ゲーム、15―11と追い込んだ。翌土曜日の混合ダブルスでは、カレン・ブリッジと組んだトニー・フィンチは、トップにシードされていたビリー・ギリアンド＝カレン・パティックを倒して観衆を喜ばせた。グロースターのスー・アルフィエリがドイツのミカエル・シュナーゼと組んでデビッド・エディ＝バーバラ・サットン組を3ゲームの緊迫した試合を演じたことも見逃せないものだった。しかし、地元の「英雄」マイク・トレジェットに肩を並べる者はいないはず。男子ダブルスと混合ダブルスでそれぞれの国際試合でのパートナーと組んで優勝したのである。

「3」づくしのノラ

第3地区での第3回トーナメント、ノラ・ペリーにとって3回連続の3冠王。

ノラの正確なショット、コート上の動きは観る者には楽しく相手にとっては欲求不満の種。

国際的な味わいは、ドイツの国際チームがこのサーキットに参加したことで堪能できた。

接戦あい次ぐ

そして決勝。女子シングルスでは、ノラ・ペリーはこのサーキットでジェーン・ウェブスターに3回目の勝利。11―8、12―9のスコアは二人の力の互角を示すものだ。決勝までに、ジェーンは、カレン・ブリッジに11―4、11―5とかなり楽に勝っているポーラ・キルビントンに、ファイナル・ゲームに追いこまれていた。

男子シングルスは、またもやスティーブンスとタルボットの顔合わせで、「デレクにとっての3度目の正直」となった。第1ゲームで13―1となったタルボットは、いささか気のゆるみがあったようで、レイは11―13と追いつき、ネットぎわの「緊迫した」打合いがあって14オール。デレクは持ちこたえて17―15でこのゲームをとる。第2ゲームでレイが8―4となった時、いつ終るかと思えるラリーの応酬が続き、結局このゲームをとったものの、レイにとっては一試合に匹敵するものだっただろう。試合内容はいぜんよかったが、デレクはコントロールをとり戻して12オール、3点を加えて勝利の手形はデレク・タルボットのものとなった。

トレジェットの活躍

例によって最終に行われた混合ダブルス。ノラ・ペリーのフォア・コートのコントロールで開かれた好機をマイク・トレジェットは十分に活かした。決勝までどうにか進んだデビッド・エディとバーバラ・サットンは試合にならなかった。

各種目の決勝スコア

男子シングルス
D・タルボット17―15、15―12
R・スティーブンス

女子シングルス
N・ペリー11―8、12―9
J・ウェブスター

男子ダブルス
M・トレジェット、R・スティーブンス組13―15、15―12、15―7
D・エディ、E・サットン組

女子ダブルス
N・ペリー、B・サットン組15―3、15―4
K・ブリッジ、K・パティック組

混合ダブルス
M・トレジェット、N・ペリー組15―3、15―5
D・エディ、B・サットン組

本日の試合

ラブ・オール

10月28日、秋の「夏の一日」、キャスリン・ホワイティングとマイク・トレジェットは、グロースターのアプトン・セント・レオナード教会で結婚式を挙げた。

キャスリンは、中世風に長い袖のついた濃いクリーム色のサテンの優雅なドレス。ブーケは、クリーム色の蘭とばら。付添いの友人たちは花柄のドレスを着ている。新郎と友人たちは茶色のヴェルヴェットのジャケットを着用。

教会の窓を通して太陽が美しい秋の花々を浮き上らせて、まさに絵のようだった。教会の鐘がマイク・トレジェット夫妻の誕生を告げると、バドミントンの仲間たちによるラケットの儀仗隊が編成された。

由緒深い教会の納屋での楽しいレセプションの後、ラケットはゴルフ・クラブにかわった。水入らずで過ごす海辺とコースのあるアルガルヴェ（ポルトガル）へのハネムーンに出発だ。

「バドミントン・ギャゼット」12月号から

◇読者投稿

第25回近畿高校バドミントン選手権大会

貴田（男子）、北田（女子）が単複制す

大阪市　津村　正道

琵琶湖畔から流れる風も肌寒く感じる、ここ滋賀県立体育館。第25回近畿高校バドミントン選手権大会は、11月17日、18、19日と熱戦が繰り広げられた。

男子は奈良正強のエース貴田が、昨年シングルスベスト8、ダブルス2位の経験を生かし、終始冷静さを失わず、マイペースの試合運びで単複二冠に輝いた。

女子は、大阪・四条畷の北田が、今年のインターハイでの実力をいかんなく発揮し、圧倒的な強さで単複ともに初優勝に輝いた。

それぞれのスコアは次のとおり。

▽男子ダブルス準決勝
貴田・古賀　2―1　松井・藤野
（奈良・正強）　（滋賀・比叡山）
馬杉・近藤　2―0　中村・藤井
（滋賀・比叡山）　（奈良・一条）

▽男子ダブルス決勝
貴田
古賀　2
（15―2　15―5　17―18）
1　馬杉
近藤

▽女子ダブルス準決勝
北田・富田　2―0　西村・岩見
（大阪・四条畷）　（滋賀・比叡山）
原田・河原　2―0　青山・福田
（兵庫・園田）　（京都・成安）

▽女子ダブルス決勝
北田
富田　2
（15―7　15―4）
0　原田
河原

▽男子シングルス準決勝
貴田（奈良・正強）　2―0　山本（滋賀・比叡山）
古賀（奈良・正強）　2―0　栄（奈良・正強）

▽男子シングルス決勝
貴田　2
（15―1　15―8）
0　古賀

▽女子シングルス準決勝
北田（大阪・四条畷）　2―0　西村（滋賀・比叡山）
原田（兵庫・園田）　2―0　植田（大阪・四条畷）

▽女子シングルス決勝
北田　2
（11―4　11―1）
0　原田

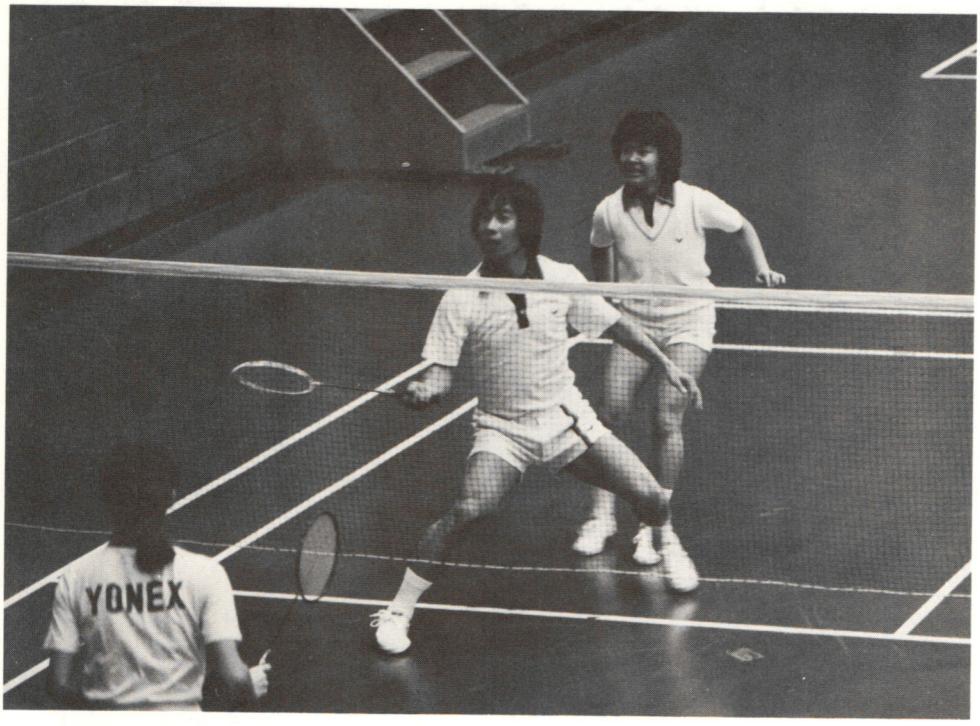


〝王者健在〟なり、北田



ファイトでがんばった貴田

決定的瞬間!!



よしッまかせとけ！
あッズルイ　わたしが取ろうと思ったのに
（オール・ジャパンにて、横浜市・高橋英敏氏撮影）



お願い、取って!!
（天童市バドミントン大会にて
天童市・栗田みゆきさん撮影）

大会記録と〝決定的瞬間〟の写真をお送りくださった皆様には、投稿記念としてオリジナル・キーホルダーをお送りいたします。編集部

◆バドミントン界専用合本バインダーお申込みの皆様へ

編集部では、毎年合本バインダーを制作してまいりましたが、保管上の問題があり、一度に大量に作ることができず、そのつど品切れになってご迷惑をおかけしております。

今年も昨年秋に作ったものが品切れとなり、現在急ぎ制作中ですので、もうしばらくお待ちください。

現在制作中のものは、表紙などは従来どおりですが、本誌をはさみ込むピンを改良し、扱いやすくいたしました。

できあがりしだい誌上で発表いたしますので、お早目にお申込みください。

◆バドミントン・カレンダー'79お申込みの皆様へ

バドミントン・ワールド・カレンダー'79は、おかげさまで好評のうちにほぼ品切れとなりました。

バドミントン・ワールドカップ'79のプログラム広告でお申込みの皆様には順次発送してきましたが、発送用の筒が不足しており、現在注文しているところです。

大変申し訳ありませんが、悪しからずご了承のうえ、しばらくお待ちください。

◆写真・原稿をお送りください

ワールドカップ'79東京大会会場で、「観戦記」「写真」を募集いたしましたところ、多くの方々からの応募がありました。

来月号で発表するように準備を進めていますが、この大会に限らず、原稿と写真は募集しています。

観戦記、練習方法の紹介、ご意見、また詩やエッセイでもけっこうです。

写真はバドミントンに関するものでしたら何でも受け付けておりますので、ふるってお送りください。

できれば定期的に「誌上討論会」のようなものも実現したいと考えています。

お送りくださった方には、もれなく記念品をお送りしております。

◆今月はワールドカップ'79の地方大会のもようと、第8回アジア大会の記録を中心にお届けいたします。

どちらもインドネシア男子の底力を思い知らされたような気がします。5月のトマス杯インターゾーンでは、準決勝で日本とインドネシアが対戦する予定です。選手には今から着々と準備を進めて思い切ったプレーをしてもらいたいものです。

◆全英選手権大会もあと一ヵ月余りで開催されます。いよいよシーズン到来ですネ。

◆本誌も4月号から大幅増ページの予定で構想をねっています。ご意見、ご希望（テーマや筆者など）を編集部あてお送りください。お待ちしています。

昭和54年2月1日
日本バドミントン協会
表彰委員会委員長
浅岡　武

昭和54年度総会席上被表彰者について

このことにつきまして、顕讃賞申請20件を得、審議の結果、つぎを昭和54年度総会席上、特別功労賞と合わせて、表彰することとなりました。

記

1．特別功労賞　田中荘三郎（北海道）

2．顕讃賞
浅野喜代治（宮城県）　笹気　幸助（宮城県）
松良　宣三（宮城県）　小林　茂（栃木県）
別井　保男（栃木県）　江尻　兼三（富山県）
品川忠三郎（富山県）　宮地　次吉（富山県）
十条製紙株式会社伏木工場（富山県）
秋岡　澄子（大阪府）　清水　照彦（大阪府）
宮脇　正晴（大阪府）　瑠東　治（大阪府）
松尾　良行（奈良県）　敬称略

以上

なお、2月25日午前10：00より、岸記念体育館講堂・昭和54年度総会席上にて表彰されます。

バドミントン界　通巻第112号　1979年2月号　定価300円

©1979　無断転載を禁ず

昭和54年2月15日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号 150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111(代表) 内線351
振替　東京5－9525(バドミントン界編集部)

TOKYO Letter

by M.WAKAZONO

The curtain was finally raised on the First World Champions Cup Badminton Tournament on January 13. World champions Liem Swie King of Indonesia and Mrs. Gillian Gilks of England, as well as Christian, Chandra, Prakash, Delfs, Talbot, Mrs. Perry, Clarkson, Köppen, and many other top players from all over the world exhibited their exquisite skills in various cities in Japan.

Liem Swie King and Mrs. Gilks both more than lived up to their title of the best in the world by dazzling their opponents with their superb technique.

All the foreign players as well as players representing Japan will participate in the finals of this tournament, to be held in Tokyo from January 19 to 21, which will determine the best players in each division. The finals will be covered in next month's issue.

Member countries of both the I.B.F. and the W.B.F. took part in the Eighth Asian Games in Bangkok last December. It turned out to be a tournament of substantial quality.

One especially noteworthy outcome was the complete defeat of the women players of Japan, holder of the Uber Cup, by the People's Republic of China, the W.B.F. champion. Also, in the men's division, Indonesia, led by Liem Swie King, Christian, and Chandra displaying unsurpassable strength, overwhelmed the strong Chinese team and took the lead in the overall team totals as well as individual matches.

Two of the best players representing Japan suffered unfortunate injuries one after the other. First, Motoo Nakai, a member of the national team, injured himself while playing in the Canadian Open. Then Noriyuki Kasai, who was to compete for the First World Champions Cup, severed his Achilles tendon on the first day of practice this year in January. It will take about six months for him to recuperate. Nakai and Kasai, therefore, will probably be out of competition for some time. Following the example of Hiroe Yuki, we look forward to their vigorous and fighting comeback.

We urge you not to miss the photographs featured this month of the local matches of the First World Champions Cup Tournament and the Eighth Asian Games.

We'll be back with more news next month !



B-9300 Carbonex3

●スリー……¥7,500(フレーム・ケース付)



B-8300 Carbonex7

●セブン……¥7,700(フレーム・ケース付)

パワー時代のラケット。先進のカーボン。

フレームにウッドと特殊アルミ合金の違いはあっても、この2本どちらも今世界のコートで大活躍中。ヨネックス独自のカーボンラケットです。カーボンシャフトのすさまじい弾性が強力なスマッシュを生み出します。そのうえスウィートスポットがぐんと広がり、シャトルをとらえる性能も確実。世界の一流プレイヤー達がパワーバドミントンを目ざしている現在、これこそまさにうってつけのもの。カーボンならヨネックスです。

●日本初のこと－このラケットにはRとXの表示があります。Rはレギュラーでスナップ打法用。Xはエキスパートでフルスイング打法用です。

YONEX®